

官

報

號 外

明治二十八年二月七日

木曜日 内閣官報局

○第八回 衆議院議事速記録第二十五號

明治二十八年二月六日(水曜日)午後一時十七分開議

議事日程 第二十五號 明治二十八年二月六日

午後一時開議

同理事
古社寺保存ニ關スル建議案審査特別委員長 石塚重平君
同理事 竹村藤兵衛君
特別委員左ノ通り指名セリ

鶩業講習所設置建議案審査特別委員

堀内賢郎君 平島松尾君 漆間民夫君

脇坂行三君 新井豪君 朝倉親爲君

前川楨造君 中島祐八君 喜多川孝經君

縣域變更法案賛成者中へ福田久松君小松三省君山本隆太郎君ヲ追加セラレ

タキ旨申出ラレタリ

(左ノ質問書ハ朝讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

清國媾和使ニ對スル談判拒絶ノ質問

政府ハ去ル四日ノ議場ニ於テ清國媾和使ト談判スルコトヲ謝絶シタル旨
報告ヲ政府委員ニ爲サシメタリ然レトモ其委任狀中如何ナル點カ完全委當
ヲ缺クヤフ報セサリシハ本員等ノ遺憾トスル所トス彼ノ委任狀ノ當不當ハ
大ニ國家ノ榮辱ニ關スル者アラン依テ本員等ハ政府カ速ニ委任狀中其ノ不
完不當ナル點ヲ子細ニ陳告アランコトヲ望ム

明治二十八年二月五日

提出者 肥塚龍君 贊成者 田口卯吉

外二十九名

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ會議ヲ開キマス——肥塚龍君

(肥塚龍君演壇ニ登ル)

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

陸奥國青森港ニ於テ露領浦鹽斯德港及西比利亞沿岸貿易ニ關スル船舶ノ

出入及貨物積卸許可法律案

提出者 源 晟君

出征軍人軍屬ノ特典ニ關スル法律案

提出者 阪田昌熾君

特別委員長及理事左ノ通リ當選セラレタリ

官有原野拂下ニ關スル建議案審査特別委員長

磯部十藏君

至リアル、外交部面ノコトデアレバ公ニシテ善キコトモアルシ、又祕密ニ
スペキコトモアル、公ニシテ差支ノナキモノハ公ニシテ貴ヒタイト云フコト
ノ質問ヲバ——請求ヲバ總理大臣ニ致シタコトガゴザイマスルガ、第七議會
ニ於テハ其事ニ對シテ今ハ答辯スル、機會カ來ナイト言フテ總理大臣ガ之ヲ
バ拒絶シタノデゴザイマス、第七議會ニ於テハ拒絶ヲ致サレマシタ、吾々ハ
實ニドウモ此拒絶ニ就イテ遺憾千萬ノ至デアツタノデゴザイマスルガ、偕
第七議會モ濟ミマシテ此度第八議會ト云フモノニナリマスルト云フト、私ハ
先ヅ此質問ノ要領ヲ述ベルニ先ツテ、政府ガ第七議會カラ第八議會マデ歩ン
デ來ル間ニハ、餘程ノ進歩ヲシタト云フコトヲバ謝シテ置カナケレバナラナ
イ、則チ第七議會ニ於テハ外交ノ事一言半句モ總理大臣ハ口ニスルコトヲバ
承諾シナカツタノデゴザイマスルガ、第八議會ニナツテ見マスルト云フト模様
ガ大分變ツテ參ッタ、其變リヤウハ極ク吾々ガ満足スベキ變リヤウデアツテ、諸
君ノ御承知ノ通リ去ル四日ニ政府委員ヲシテ總理大臣ハ當議場竝ニ貴族院議
場ニ於テ、清國全權大使ヲ直ニ談判スルコトヲバ謝絶シタ旨ノ通知ヲ報告
ヲセラレタノデゴザイマス、是ハ至極吾々ノ満足スベキ話デアル、第七議會ニ
於テ外交ト云フ苟且ニモ二文字ガアツタ以上ハ、其門内入ルベカラズデ、悉
ク皆謝絶シテ告グルコトヲバ拒ンデ居タノデゴザイマスガ、第八議會ニ於テ
清國ノ使節ヲバ拒絶シタト云フ其事ヲバ電報ヲ以テ外務省へ通知ヲシテ、政
府委員ヲシテ議場ニ報告セラレタト云フコトハ、則チ外交部面ノ掩蔽主義外
交部面ノ總テ何モ彼モ隱シテ置カナケレバナラヌト云フコトガ一新致シマシ
テ、今ハ斯ル報告ヲスルヤウニタト申シマスノハ、誠ニ政府ノ處置其當
ヲ得タリト私ハ喜ブノデアル——喜ブノデゴザイマスガ、今一步進メテ此喜
ラシテ五ツノ喜ヲ十マデ、十ノ喜ヲ一十マデニシテ貴ヒタイト云フ一事ガア
ル、ソレハ何デアルカト申シマスルト云フト、去ル四日ニ政府委員ガ此議場
ヘ報告シタ其文面ハ此通デアル

清國媾和使去月三十一日廣島ニ到著シタルヲ以テ兩回廣島縣廳ニ於テ兩國
全權委員ノ會合ヲ經タリ而シテ該使節等カ帶有スル所ノ全權委任狀ヲ查見
シタリシニ頗ル完全妥當ヲ缺クモノニシテ清國政府カ其使節ニ十分ノ全權
ヲ與ヘサルハ未タ兩國間ニ現存スル所ノ重要ナル問題ヲ結了セントスルノ
誠意ナキモノナリト認メサルヲ得サルニヨリ帝國全權委員ハ該使節ニ向
テ最早此上會議ヲ繼續スルコト能ハサル旨ヲ宣告スルノ止ムヲ得サルニ至
レリ

此報告ガアツタノデゴザイマス、此報告ハ至極結構デアル、至極結構デアル
ガ、私ハ百尺竿頭ニ一步ヲ進メテモウ一報告シテ貴ヒタイコトガアル、ソ
レハ何デアルカト申シマスルト云フト、其委任狀ハ完全妥當ヲバ缺ク所ガアツ
タガ故ニ謝絶シタト云フ此趣意ニナツテ居ルノデゴザリマスルガ、政府ハ此
報告ヲ爲シタ以上ハ、其完全妥當ヲバ缺イテ居タ點ハ、如何ナル所ニアルカ
ト云フ其委任狀ヲ缺イテ居タ點ダケヲバモウ一應報告ヲシテ御貴ヒ申シタイ

ト思フノデアル、吾々ハ御承知ノ通リ第七議會ニ於テ一億五千萬圓ノ軍事公
債ヲ一言半句ノ異論ヲ言ハズ全會一致ヲ以テ此戰爭ノ資金ト云フモノノ議決
シタノデゴザイマス、戰爭ノ資金ヲ吾々ガ議決シタ以上ハ、此戰爭ニ大關係
アル所ノ此使節が我全權委員ニ齎ラシ——我政府ニ齎ラシテ來タ所ノ其委任
狀ノ不完全ナル所ヲバ、指摘シテ報告シタ所ガ更ニ差支ナキ話デアル、若シ
是ガ未來ノ外交政策ニ妨害ガアルト云フヤウナコトデゴザイマシタコトナレ
バ、私共ハ此請求ハ決シテ致シマセヌ、縱シ一時ノ祕密ヲ守ルトモ國ニ大利益
ノアルコトデゴザイマスレバ、ソレハ祕密ニサレテモ致方ハゴザイマセヌガ、
委任狀ニ不完全ナ所ガアツタト言ハル、コトハ、過去ノ事實デアル、過去ノ
事實ハ之ヲ報告シタ所ガ未來ノ日本外交政策ニ妨害ガアルト云フコトハ萬ナ
キコト、私ハ信ジマスルカラシテ、今清國全權大使ヲ逐還シタト云フ所ノ
報告ト同時ニ、其逐還シタ所ノ理由即チ委任狀ノ缺點ハ斯クヒテアルト云
フコトヲバ、ドウカ政府カラシテ此議會ニ向ツテ報告アリマシタコトナレバ、
一ノ満足ヲ得テ又二ノ満足ヲ得ル次第デゴザリマスカラ、此質問書ヲバ出シ
マシタノデゴザリマス

○議長(楠本正隆君) 議事日程第一ニ進ミマスル、鐵道敷設法案——望月右
内君

第一 鐵道敷設法改正法律案(望 月右内君外六名提出)

第一讀會ノ續(特別委員 長報告)

(望月右内君演壇ニ登卓)
○望月右内君(百十番) 委員會ノ經過ヲ御報道致シマス、本案ハ大體ニ於キ
マシテ此敷設法中ノ第二條第八項ニ掲ゲテアリマスル、此不明瞭ナ——一行
ニ書イテアルノハ不明瞭デアルカラ、之ヲ二項ニ大別シヤウト云フノデアル
カラ、至極結構デアルト云フ滿場一致ヲ以テ大體ヲ可決致シマシタ、而シテ
此法文ニ當籍メマスルニハ素ト北越線及奥羽線ノ連絡線トアリマスノハ、奧
羽線及岩越線ト云フ見出シニシマスルト明瞭デアラウト云フコトデ、之ヲ斯
ノ如ク記載スルコトニ決シマシタ、ソレカラ此「水原又ハ新發田」ト云フ此七
字ヲ削除シマシタモノハ、是ハ昨年此岩越ニ私設ヲ許シマスル當時ニ新津ヨ
リト極シテ仕舞フテアリマス、今デハ法律ノ第十五號ヲ私設ヲ許ス時ニ此議會
デ決定シテアリマス、故ニ是ハ動カシ得ラレヌモノデアルト云フコトヲ委員
會デ氣附キマシタノデアリマス、ソレ故ニ斯ノ如ク削除ノ修正ヲ致シマシタ
次第アリマス、是ダケヲ辯シ置キマス

○議長(楠本正隆君) 御質疑ガナケレバ決議ヲ採リマス、一讀會ヲ開クニ同
意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數

○田邊久藏君(二百十九番) 省略ヲ致シマシテ——三讀會ヲ略シテ直ニ二次
會ヲ開イテ確定トセラレムコトヲ希望シマス

○議長(楠本正隆君) 二百十九番ノ讀會省略ノ動議ニハ御異存ゴザリマセヌ
カ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

鐵道敷設法改正法律案(望月右内君外六名提出) 第二讀會
○議長(楠本正隆君) 異議ナシト認メテ直ニ該案ヲ議題ニ供シマス、修正案
ヲ議題トシテ朗讀ヲ省キマス
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ又「三讀會異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 正式トシテ委員ノ報告修正案ニ就イテ決議ヲ採リマ
ス、委員ノ修正ニ同意ノ諸君ハ起立
起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數——第一ハ確定ス報ジテ第二ニ移リマス

第二 鐵道敷設法改正法律案(小畠岩 次郎君提出) 第一讀會ノ續(特別委員)

○谷澤龍藏君(十五番) 本案モ讀會ヲ省イテ確定議ト致シタイ

(望月右内君演壇ニ登ル)

○望月右内君(百十番) 本案モ大體委員會ハ可ト認メマシタ譯デアリマス、
ソレハ東奥羽線ニ始マリマシテ、ソレカラ西長州ニ達シマスル我國ノ北面ノ
貫通線デアリマス、然ルニ此舞鶴ヨリ敦賀ニ至ルノ間ハ全ク缺ケテアリマス
ノデアリマス、之ヲ補シテ第一期線ニ加ヘテ置カウト云ロマスルコトハ、穩
ナ修正案ト認メ、故ニ大體ヲ可決致シマシタ次第ニアリマス、而シテ是ハ敦賀
以下數字ヲ削除致シマシタモノハ、斯ノ如ク一轍ノモノニ書下シマスルヨリ
ハ、唯今加ヘマスル所ノ敦賀ヨリ舞鶴ノ間ノ一線路ヲ特別ニ書置キマスル方
ガ明瞭デアラウト思ヒマスルガ故ニ、斯ノ如ク數字ヲ削除致シマシタ次第ニア
ゴザリマスル、是ダケ御報告ヲ致シマス

○谷澤龍藏君(十五番) 読會ヲ省略シテ可決セラレムコトヲ希望シマス
○議長(楠本正隆君) 然ラバ讀會ハ省略ニハ御異議ガゴザリマセヌカ
議ヲ採リマス、委員ノ修正ニ同意ノ諸君ハ起立
起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數、是亦該案ノ結了ヲ報シマス
○議長(楠本正隆君) 次ハ第三傳染病豫防ニ關スル法律案——恒松隆慶君
議ヲ採リマス、委員ノ修正ニ同意ノ諸君ハ起立

第三 傳染病豫防ニ關スル法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

(恒松隆慶君演壇ニ登ル)

ニナリマシタ時ハ、明治十九年デゴザリマシタガ、是ヘ町村制實施以前ノコトデゴザリマシテ、府縣ガ主トシテ其負擔ヲ負ッタ時デゴザリマス、此時ニ府縣ノ負擔額ガ百六十萬圓餘デゴザリマシテ町村ガ凡ソ五十餘萬圓バカリ支出シテ居ルシヤラウカト考ヘマスルガ、今後斯ノ如キ傳染病ノ流行ガ劇シクシテ明治十九年ノ如ク凡ソ百五十萬圓位豫防費ヲ要スルト致シマシテモ、府縣ノ負擔額ハ五十萬圓ニ致シテ、國庫ノ負擔ト云フモノハ僅ニ八萬圓バカリ支出スルリアルト考ヘマスル、併シ斯ノ如ク豫防費ノ多額ヲ要スルト云フコトハ杞憂ノコトデゴザリマスルデ、國庫ノ負擔ト云フモノハ凡ソ五六萬圓位豫備ガアツタラ十分デアラウト考ヘマスル、デ斯ク僅少ノ金額ヲ國庫カラ支出スルガ容易ニ……恐ルベク又忌ムベキ所ノ傳染病ヲ豫防シ得ルトスレバ、國家ハ喜ンデ是ダケノモノハ負擔スルノガ當リ前デアラウト考ヘマス、デ未ダ私モ段々述ベタイコトモアリマスルケレドモ、餘り長ミシクナリマスルデ、大體修正ノ意ヲ聊カ述置クノコトデゴザイマス

○小西甚之助君(六十二番) 私ハ本案ニ對シテ緊急ニ先決問題ヲ提出致サウト思ヒマス——ちよつとアナタ降リテ下サイ

(小西甚之助君演壇ニ登ル)

○小西甚之助君(六十三番) 此傳染病豫防ニ關スル法律案デゴザイマスルガ、其表題ニ於テハ極ク淡泊ナノデアル、サリナガラ其精神ヲ見ルト云フト則チ一定ノ限ガアルモノデゴザイマス、何トナラバ第一條ニハ「此費用府縣ノ負擔ニ堪フル能ハサルトキハ云々」ト書イテアル、又説明書ニ依リマシテモ「府縣ノ負擔ニ堪フル能ハサル場合ナキニアラス云々」ト書イテアル、シテ見マスレバ原案ノ明文ニ依リマシテモ、亦説明書ニ依リマシテモ、此精神トスル所ノモノハ府縣ノ負擔ニ堪フル能ハザル時ニ國庫ノ金ヲ以テ補助ササウト云フノガ則チ精神デアル、所ガ特別委員ニ於テ審査ヲ遂ゲテ報告セラレタルモノヲ見ルト云フト、第一條ニ於テ斯ノ如ク書イテアル「傳染病豫防ニ關スル費用ハ市町村支出額ノ三分一ハ府縣之ヲ負擔シ府縣支出額ノ六分一ハ國庫之ヲ負擔スト」斯ノ如クアリマス、則チ特別委員ガ修正シタノハ詰リ市町村及府縣ニ於テ其負擔ニ堪ヘサル時ハ内務大臣ハ此部合ヲ越ニルコトヲ得」ト云フコトガアツテ、府縣ニ於テ其負擔ニ堪ヘザル時ハ云々ト云フコトニコトハアル、然レドモ是ハ市町村ノ費用ノ負擔額ガ堪ヘナイ時ニ於テ其部合ヲ越ニルト云フコトニシヤウト云フモノデゴザイマシテ、直ニ府縣ノ負擔ニ堪ヘナイ時之ヲ補助セシメヤウト云フモノハ自ラ逕庭ノアルモノデゴザイマス、シテ見マスレバ此特別委員ガ修正シタル所ノモノハ付託致シタル議案ノ精神ノ外ニ出タルモノデアル、付託致シタル所ノ議案デ見ルト、府縣ノ負擔ニ堪ヘナイトキ國庫ノ補助ヲ爲サシメヤウト云フモノデアル、然ルニ委

員ノ修正セラレタルモノハ市町村ノ負擔ニ堪ヘナイトキ是ヲ府縣ト國庫ヨリ補助セシメヤウト云フコトニシタモノデアリマスルガ故ニ、明ニ衆議院規則第二十五條ニアル付託事件ノ外ニ涉リタル取調ト私ハ斷言スルコトヲ憚ラナシ者デアル、既ニ此二十五條ノ付託事件ノ外ニ涉リタルモノト見ルナラバ、宜シク同規則第六十五條ニ依リマシテ私ハ更ニ同一ノ委員ニ返附シテ其付託事件内ニ於テ審査ヲ遂グラレテ、更ニ報告セラレムコトヲ望ムト云フ先決問題ヲ茲ニ提出致ス次第デゴザイマス、諸君、幸ニ此事ヲ御了承アツテ御熟考アラムコトヲ希望致シマス

○脇坂行三君(三十五番) 本員ハ政府委員ニ説明ヲ請ヒマス、此豫防ノ此案ヲ議シマスルニ就イテ必要ノコトデゴザイマス、宜シウゴザイマスカ

○恒松隆慶君(七十番) 先決問題トスベキモノデナイト云フコトヲ述ベタイト思ヒマスガ、如何デゴザイマス

○堀越寛介君(二百四十一番) 唯今小西君ヨリ委員ガ付託以外ニ就イテ斯様ナル審査ヲ遂ゲタト云フコトデゴザイマスルガ、能ク御覽下サリマスレバ則チ此前ノ表題ハ傳染病豫防ニ關スル法律案デアル、後トノモ矢張傳染病豫防ニ關スル法律案デアル、吾ミガ付託ヲサレタノハ則チ傳染病豫防ニ關スル法律案ヲ付託サレタノデアル、其項目ニ就イテ豫防ニ關スル所ノ事柄ヲ吾ミガ尙ホ御再考ヲ一ツ願ヒマス

○小西甚之助君(六十三番) 私ハ矢張其尋アルニモ拘ラズ、付託以外デアルト信ジテ疑ハナイ者デアル、成程御尋ノ言葉ニアルガ如ク、傳染病豫防ニ關スル法律案ト云フノデアル、然レドモソレハ全ク表題デアツテ其精神トスル所ノモノハ説明書ニ依ラナケレバナラヌ、又其形體トスベキ所ノモノハ法律案其條項ニ依ラナケレバナラヌ、然ルニ法律案其條項ニハ明ニ府縣ノ負擔ニ堪ヘザル云々ト云フコトヲ掲ゲテ實ニ瞭然タルモノデアル、決シテ此表題バカリガ單獨ニ立ツコトノ出來ルモノデゴザイマセヌ、則チ此形體其精神ハ此法文ト其説明トニ明ナルモノデゴザイマスルガ故ニ、此精神ニ基ク所ノモノニ對シテ其費用ヲ國庫ヨリ補助ササウト云フコトニナツテ居ルノデアル、國庫ト府縣ト此二ツヨリシテ市町村ノ費用ニ對シテ補助ヲササウト云フコトニナツテ居ルモノデゴザイマス、成程修正案ノ第二條ニ依リマスルト「市町村及府縣ニ於テ其負擔ニ堪ヘサル時ハ内務大臣ハ此部合ヲ越ニルコトヲ得」ト云フコトガアツテ、府縣ニ於テ其負擔ニ堪ヘザル時ハ云々ト云フコトモアルコトハアル、然レドモ是ハ市町村ノ費用ノ負擔額ガ堪ヘナイ時ニ於テ其部合ヲ越ニルト云フコトニシヤウト云フモノデゴザイマシテ、直ニ府縣ノ負擔ニ堪ヘナイ時之ヲ補助セシメヤウト云フモノハ自ラ逕庭ノアルモノデゴザイマス、シテ見マスレバ此特別委員ガ修正シタル所ノモノハ付託致シタル議案モ……又第四議會ナドニ於キマシテモ隨分是等ノコトハやかましい先例ガアツタヤウニ思ハレマス、四大川ノ調査ヲ付託シタ所ガ一大川ニ是ヲ致シタ、其時ニモ非常ナやかましいコトガアツカレドモ、詰リ委員ノ權限ト云フモノハ左様ニ狹隘ナルモノデナイト云フコトデ決シタコトガアリマス、ソレコレヲ以テ考ヘ見レバ決シテ傳染病豫防費ノコトハ國庫ノ負擔、所謂國庫ナ

リ府縣ナリ町村此三者ヲ以テ此事ニ當ルト致シタノハ、決シテ付託以外ト云フベキモノデナイト考ヘマス
○中村克昌君(百四十一番) 私ハ全體此案ニハ反対デアル、併シ唯今小西君ノ述ベラレタコトハ間違テ居ルト思フ、是ハ委員ニ於テ權限ヲ害シタコトハナイト思ヒマス、則チ恒松君ノ言ハル、通り唯區域ガ擴ガツタノデアル、其趣意ノ區域ガ擴マツタニ過ギナイ、決シテ委員ガ權限ヲ侵シテ調べタモノデハナイト私ハ思ヒマス、小西君ノ說ハ甚ダ間違テ居ルト私ハ思フ、宜シケレバ私ハ反対ノ意見ヲ述ベマス

(此時發言ヲ求ムル者多シ)

○議長(楠本正隆君) 決議ヲ採ラウト思ヒマスガ、ドウデス

(採決々々ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 小西甚之助君ハ委員ノ調査ガ議場ノ付託外ニ涉テ居ル故ニ、再調査ヲ同委員ニナサシメタイト云フ先決問題、右ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(楠本正隆君) 少數 是ヨリ通告ニ從ヒマスル——中村克昌君

○中村克昌君(百四十一番) 私ハ簡單デゴザイマスカラ此所デ述べマス、此案ハドウモ私ハ贊成スルコトガ出來ナインデゴザイマス、其理由ハ第一地方自治ノ原則ニ背イテ居ルト思フ、殊ニ先頃出マシタ所ノ恒松君外諸君ヨリ提出セラレマシタ原案ハ時トシテハ國庫ヨリ補助スルト云フノデゴザイマスカラ、是ハドウカ私モ熟考ヲ致サウトモ考ヘテ居リマシタケレドモ、今度委員長ノ報告セラレマシタ議案ニ依シテ見マスルト云フト、傳染病ガ地方ニ在ッタ都度、國庫ハ必ズ是ヲ幾分カ補助スルト云フノデゴザイマス、多少ニ拘ラズ國庫ガ是ヲ負擔スルト云フニ至ルテハ、前段申述べマシタ通り地方自治ノ原則ニ背キマスト考ヘマス、斯ノ如キ法律ヲ設ケマスレバ、續々各地方カラ毎年申出テ實ニ煩雜ヲ極メルコトデアル、又唯今委員長カラノ報道ニ依ラテ見マスルト、多額ノ金デハナイ、必ズ國庫ノ負擔ヲ致スト雖モ國庫ニ響ク程ノ多額デハナイト申サレマシテゴザイマシタケレドモ、果シテ多額ノ金デナケレバ地方デ負擔ラシテモ差支ナイコトデアル、素ヨリ國庫ニ於テ負擔シ能ハザル場合ナラバ補助スルモ是モ當然ト思ヒマスケレドモ、少額ノ金ヲ以テ十分足リルコトデアルト言ハレマス、果シテサウナラバ國庫カラ何ノ補助スル必要ハナイト考ヘル、殊ニ今日ハ諸君ガ議會ヲ述ベラレマス通り軍國多事ノ場合ニアッテ、斯ノ如キ議案ヲ議スベキトキナイト思ヒマス、私ハ平素ニ怪シムニ堪ヘナイコトデゴザイマス、則チ私ハ反対ヲ致シマシテ此議案ノ通

○脇坂行三君(三十五番) 本員ハ政府委員ニ質問ヲ致シマス、本員ガ政府委員ニ説明ヲ請ヒマスノデゴザイマスガ、本員ハ過日質問書ヲ提出致シテ置キ

マシタケレドモ、未ダ此御説明ヲ得マセヌノデゴザイマス、本員ノ本日此案ヲ議シマスルニ當リマシテ、説明ヲ煩ハシタイト思ヒマスルコトハ、此傳染病ノコトデアリマスルガ、傳染病ノ中ニモ御承知ノ通り、六種傳染病トナツテ居リマスガ、其中ニ明治二十四年、五年、六年、七年ト涉リマシテ、追々増加致シマシテ國民ヲ妨害致シマスル所ノ甚シキ所ノモノト云フモノハ赤痢病デアリマスル、其亦痢病ノ統計ニ就イテ考ヘマスルニ、明治二十五年ニ於キマシテハ七万八千零四十二人、明治二十六年ニ於キマシテハ頓ニ増發致シマシテ十六万七千三百零五人、之ニ對シマスル、增加致シマシテ明治二十七年ニハドウ云フ景況二人トナツテゴザイマスル、增加致シマシテ

デアルカト申シマスレバ、患者ノ數ガ十八万四千七百十八人、此死亡數ガ三万八千三百八十八人ト云フモノニナツテ居リマス、既ニ明治二十六年、二十

七年度ハ斯ノ如キ多數ノ赤痢患者ガ出來テ居リマス、然ルニ政府ノ方ニ於キ

マシテハ如何ナル豫防ノ方法ニ依シテ此消毒豫防ノ事ヲ取扱シテ居ラル、ノ

デゴザリマスカ、既ニ明治二十六年ニ於キマシテハ斯ノ如キ澤山ナル患者ガ止ムト云フコトガ更ニナイノデゴザイマス、私ノ非常ニ恐レマスルノハ既ニ

今日ハ征清ノ軍隊ト云フモノハ澤山渡シテ居ラル、デゴザイマスガ、之レニ

對シマシテデゴザイマス若モ此赤痢病ノ患者ガ發シマシテ其勢ガ猖獗ニナリ

マシタ場合ニ於キマシテハ非常ニ此戰鬪力モ減ズルヤウナ結果ニナルコトハ

ゴザイマシタニモ拘リマセズ、明治二十七年ニ於キマシテハ尙ホ流行ノ勢ガ

止ムト云フコトガ更ニナイノデゴザイマス、私ノ非常ニ恐レマスルノハ既ニ

今日ハ征清ノ軍隊ト云フモノハ澤山渡シテ居ラル、デゴザイマスガ、之レニ

對シマシテデゴザイマス若モ此赤痢病ノ患者ガ發シマシテ其勢ガ猖獗ニナリ

マシタ場合ニ於キマシテハ非常ニ此戰鬪力モ減ズルヤウナ結果ニナルコトハ

ゴザイマシタニモ拘リマセズ、明治二十七年ニ於キマシテハ尙ホ流行ノ勢ガ

意見ヲ集メテ、其所ヲ以テ豫備消毒等ノ方法ヲ行ハセマス、其豫防消毒ト申ス中ノ即チ遮斷法即チ避病院ヲ擇ヘル、又飲料水ノ惡ルイ所ハ飲料水ニ精々注意サセル、或ハ煮沸サセルト云フヤウナ此細カイコトマデモ唯今ノ醫術上デ是ガ宜カラウト云ハレテ居ルダケノコトハ、出來得ベキダケノ事ハ、皆進シテヤラセマス、而シテソレヲ各地方官ニヤリ、各地方官ハ郡役所町村長ニソレノ命令ヲ傳ヘテ出來得ルダケノコトヲヤラセテ居リマスノデ、併シ何故撲滅シナイデ多クナルカト云フ事柄ニ於テハ、政府モ甚憂フルノデアリマスケレドモ、ドウモ是ハ今日忽ニ撲滅スルト云フダケノ學術經驗ト云フモノモ究リマセズ、又多數ノ人間デアリマスカラ此衛生ハ申スマデモナク元來病氣杯ト云フモノハ各個人ガソレノ能ク慎シテ吳レスケレバドウシテモ政府ノ力デモ法律ノ力デモ十分ニハ居兼ネマス、然ルニ多クハ隠シテ置イテいつノ間ニカ傳播スルコトガ廣クナルト云フヤウナモノハ、マアドウモ流行ヲ矢張盛ナラシムルト云フ原因ニナリマスガ、然ルニ個人バカリニ任シテ置イテハイケナイ、ソレ故ニ昨年勅令第十四號ト云フモノノ以テ是ヲ町村ニ於テサウ云フモノハ力ノ出來得ベキ限ハ相互ニ爲スベキモノデアルト云フノデ、則チ勅令十四號ヲ以テ町村ノ負擔スベキ廉ミモ舉ゲテ示シタヤウナコトデアリマス、ソレ故ニ豫防消毒ノ仕方並ニ其費用ノ出スベキ廉等ノコトモソレノ方法ヲ指示サレテアル譯デゴザイマシテ、決シテ政府ニ於テ怠シテ居ルデモゴザイマセズ、出來得ルダケ又今日宜カラウト云フコトハ皆ヤツテ居ル積リデゴザイマス

(此時發言ヲ求ムル者アリ)

○議長(楠本正隆君) 通告ガアリマスル——真下珂十郎君

○堀越寛介君(二百四十一番) 私モ通告ヲ致シテ置キマシタ

○議長(楠本正隆君) 其前ニ真下珂十郎君ニ

○真下珂十郎君(二百七十番) 見合セマス

○議長(楠本正隆君) 見合セナラバ、次ニナリマス——堀越寛介君

(堀越寛介君演壇ニ登ル)

○堀越寛介君(二百四十二番) 私ハ委員會ノ可決ニナリマンタ所ノ法案ヲ賛成致シマスル次第テゴザリマス、デ一體此事柄ニ就キマシテハ此傳染病ノ事ニ就キマシテハ政府ガ大ニ方針ヲ今マデ過ッテ居リハシマイダラウカト云フコトヲ本員等ハ考ヘマスルノデゴザイマス、デ一體此傳染病ノ性質ト云フモノヲ考ヘ、傳染病ノ害タルモノヲ考ヘ致シマスレバ、此傳染病ノ事柄ト云フモノハ如何ナルコトニ屬スルモノデアルカト云フコトヲ明ニセネバナラヌコトダラウト思ヒマス、デ此傳染病ノ性質ト云フモノハ一人が感染ヲスレバ其排泄物デ直ニ數人、數十人、數百人ト段々ニ及シテ瞬間ノ間にニ及シテ行クモノデアル、デ例ヘバ一町村ニ於キマシテ傳染病ニ罹リマスト一府縣ニ及ビ、一府縣ガ一國ニ直ニ及シテ行ク、斯ウ云フモノデゴザリマシテ、例ヘバ甲ノ村ニ於キマシテ其傳染病ニ罹ッタ人が數人アレバ、直ニ都會ニ行クトカ或ハ

又九州ノ方ニ行クトカ、四國ノ方ニ行クトカ云フモノデアル、其害ト云フモノハ決シテ一町村若クハ一府縣ニ止マルモノデハナイ、全國一般ニ何處ニドウ行クモノカ分ラヌモノデアル、サウシテ見ルト云フト、傳染病ノ事柄ト云フトモノハ全國一般即チ國家全般ニ涉ルモノデアル、國家全般ニ其害が及ブモノノデアルト致シマシタナラバ、是レ則チ國家事業デゴザリマセウ、國家全般ノ其害ガ涉ルモノハ國家ガ是ニ向シテ防禦ヲスル所ノ手段ヲ考ヘネバナラヌコトデアル、防禦ヲスル所ノ事業が既ニ斯ノ如クデゴザリマスレバ、又費用ヲ國家ガ出スト云フコトハ是又當リ前ノ話デアル、併シテ居ル、其次ハ府縣ト云フ譯デハ直ニ其感染ノ利害、直グニ感染ヲ感ズルモノデゴザリマスルカラ、最モ直接ニ非常ニ厚ク此事柄ニ就イテハ關係ヲ持ツテ居ル、其後ハ府縣ト云フ譯デゴザリマスカラ、町村ガ先づ三分一ヲ背負ヒマストスレバ、其外ノモノハ府縣デ背負ヒ、府縣デ背負ツテ、又國家が背負フト云フコトハ素ヨリ國家ガ當リ前ニ背負フベキ所ノ當リ前ノ事業デアルノデアル、然ルニ或論者ノ申シマスルノニ、自治ヲ害スルト云フヤウナコトヲ言ハレマシタガ、成程此傳染病ト云フ事業ヲ一ノ此衛生事業則チ干渉事業ト云フ所ノ衛生唯一ノ當リ前ノ平常的ニ行フ所ノ衛生事業ト御認ニナラタナラバ、或ハ然ラム、然レドモ傳染病ト云フモノハ決シテサウデナイ、實ニ一町村……前キ申上ゲマシタル通り、傳播ノ甚シキモノデアルカ、是ハ國家事業デナケレバナラヌト私共ハ信ズルノデアル、是ガ原理トナリマシテ、則チ此分擔法ト云フモノヲ委員會ニ於テ可決ヲ致シタノデアル、此政府ガ今マデヤリ來ツタ所ノモノヲ見マスルト云フト如何デゴザリマセウカ、非常ニ此傳染病ノ事柄ニ就イテハ過ツテ居ハセヌカト云フコトヲ考ヘルノデゴザリマス、其故ハ明治十三年ニ傳染病規則檢疫停船ト云フ規則ヲ設ケタデゴザリマス、規則ヲ設ケテソレテ此傳染病ノ事柄ニ就イテハ力ヲ盡シテ防禦ヲスルト云フ方法ヲ設ケタ、併シテ居ナラ此傳染病規則ヲ見マスルト云フト、虎列刺、發疹、腸室扶私病ト云フモノニ就イテハ、大變ニ干渉シテアル、船ヲ検査スルトカ、或ハ検疫委員ヲ擇ヘルトカ、行通ヲ遮断スルトカ云フケレドモ、外ノ赤痢、腸室扶私、實扶的里、痘瘡病、べすと病ノ如キハ決シテ干渉ヲ致サヌ、是ハ唯……べすとト云フノハ是ハアリマセヌケレドモ、赤痢、腸室扶私、實扶的里、痘瘡病等ハ傳染病デアルガ、是等ニ就イテハ決シテ政府ハ御構ガナインデアル、此御構ノナイ所ヲ以テ見ルト、政府ハ傳染病ヲ國家事業ニシテ居ナリ、個人事業デアル、個人ガ爲スベキ所ノモノデアルト云フヤウナ御考ヲ持ツテ、今マデ此方針ヲ執リマシテ來タニ相違ナイ、ソレ故ニ苟モ今申上ゲマスル通り利害ノ國家全般ニ及ブモノナルニモ拘ラズ、町村ニ持ツテ行ツテ勅令十四號ヲ以テ町村ニ負擔ヲサセルト云フ町村ノ自治ニ任セテ置イテ愈々仕方ガナイ時分ニハ、此勅令十四號ヲ以テ町村ニ負擔ヲサセルハ、例ヘバ種痘ニ關スル費デアルトカ、豫防消毒ニ關スル費デアルトカ、避病院ニ關スル費デアルトカ、離隔病室ニ關スル費デアルトカ、豫防竝ニ救療

ノタメニ雇入レタ醫師ノ費アルトカ云フヤウナモノヲ、縣知事ガ町村ガラナケレバヤラセルト、是ダケノモノヲヤラセテ、サウシテ又ドウモ非常ニ多クナツテ仕方ガナイ時分ニハ、府縣稅デ助ケテヤラウ、町村ガ皆幾ラデモ顛ガツテ仕舞ッテ、町村ガ百人ナラ百人、財產ガ二千圓ナラバ二千圓アル、愈々ソレダケヲ盡シテ負擔ニ堪エラレヌト云フ場合ニハ地方稅ヲ以テ吳レテヤラウ、斯ウ云フ所ノ法案——勅令デアル、實ニ非常ナル不都合ナル所ノモノト、私共ハ實ニ政府ハ此傳染病ノコトニ就キマシテハ非常ナル不親切ナルアル、唯今私ガ此統計表ヲ調べテちよつと申上ゲマスルト、先づ赤痢病ノ點デ申上ゲマスレバ、德島縣ノ如キ、愛媛縣ノ如キ、和歌山縣ノ如キ、廣島縣ノ如キ、兵庫縣ノ如キ、熊本縣ノ如キ、福岡縣ノ如キ、長崎縣ノ如キ、其他非常ニ此赤痢病ト云フモノハ多イノデアル、先づ唯今申上ゲマシタ所ノモノハ著シキ所、赤痢病デ著シキ所ダケヲ申上ゲマシタノデ、其他ノ縣々ヲ見マスルト云フト、モウ非常ニ澤山ニゴザリマスル、テ其澤山ニゴザリマスルノハ、いつ頃カラ澤山ニナツタカト云ヘバ市町村制ヲ施行致シマシテヨリ、其以後ト云フモノガ大變ニ多イノデアル、詰リ此町村ノ自治ニ任セテ町村ガヤル、ヤツテ止ムヲ得ズンバ地方稅デ助ケルト云フコトニ對シマシタカラシテ、此病氣ノ方ハ町村ガ十分ニヤツテ吳レバ宜イ、所ガ或ハ其未ダ其處ニ至ラズシテカラニ遂ニ段々ト非常ナル勢ヲ呈シ來シテカラニ、唯今申上ゲマシタ所ノ統計ノ如キ有様ヲ來シテ居ルノデゴザリマス、此中ニ必ズ御選出ニナリマシタ御方ミガ必ズ其慘狀ノ甚シキ所ノモノハ御承知アラセラル、コトデゴザイマセウ、又虎列刺病ノ點ニ就キマシテモ其他ノ點ニ就キマシテモ以前ト云フモノガ大變ニ多クナツタ、少クナルベキモノガ、統計ヲ舉ゲテ申シマスレバ、非常ニ大變ナルコトデゴザイマスカラ、先づ統計デ申シマスノハ是ダケニシテ置キマシテ、唯御記憶ヲ願置キマスルノハ、町村制以降此傳染病ト云フモノハ大變ニ多クナツタ、少クナルベキモノガ、ソレガ段々ト此傳染病ガ非常ニ段々多クナツテ來テ居ル、多クナツテ來テ居ルノハドウデアルカ、則チ政府ガ方針ヲ間違テ居ルカラ、斯ノ如キ所ノ結果ヲ來スノデアルト私ハ信ジマスル(「簡単々々」ト呼フ者アリ)ソコデ(「分りマシタ」ト呼フ者アリ)然ラバ申上ゲタイコトモゴザイマスルガ、申上ゲマセヌデ、唯其何ダケヲ申上ゲテ置カウト思ヒマス、此軍國多事ノ際デアルカラシテ、斯ウ云フ所ノ費用ハ先づ見合セルガ宜カラウ、斯ウ云フコトヲ申サレマスガ、私ハ實ニ恐レマス、今當ニ支那四百餘州ヲ蹂躪シツ、アル所ノ兵士ガ各所ニ居ル次第デゴザイマスガ、若シ此傳染病ガ今益々勢盛ニ至リマシタナラバ——此兵士ニうつたナラバ如何デゴザリマセウカ、彼海外ニ出テ居ル所ノ兵氣ハ自ラ沮喪セシメマシテ、遂ニハ不幸ナル結果ヲ來スト云フコトハ先づ想像サレルコトデアラウト思ヒマスルデゴザイマスカラ、一ハ諸君ガ海外ニ居ル所ノ所謂海陸軍ノ人ニ對シ、又一ハ國家ガ自衛上斯ノ如キ所ノ議

決ヲシテ、サウシテ傳染病ノ事ニ就キマシテハ十分注意ヲ致サナケレバナラムト云フコトヲ議決セラレンコトヲ偏ニ願ヒマス

(守屋此助君「討論終結」ト呼フ)

○議長(楠本正隆君) 多數、次ハ例ノ通り決議ヲ採リマス、該案ニ對シテ二

リマス、守屋此助君ノ動議——討論終結ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 多數、次ハ例ノ通り決議ヲ採リマス、該案ニ對シテ二
讀會ヲ開クニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(楠本正隆君) 少數ト認メマス——次ハ第四ニ進ミマスル、醫師免許規則改正案

○議長(楠本正隆君) 少數ト認メマス——次ハ第四ニ進ミマスル、醫師免許規則改正法律案

第三讀會

○木暮武太夫君(百七十七番) 諸君——諸君、本員ハ此醫師免許規則改正法律案ノ第三讀會ニ方ツテ本案ノ廢棄ヲ主張致シマスルノデゴザイマス(「ひやひや」「贊成」ノ聲起ル)實ニ此案ハ案外ニモ第一讀會、第二讀會トモ破竹ノ勢ヲ以テ通過致シマシタ、本員ハ實ニ日本ノ文明ノタメ悲ミマス、斯様ナ案が通過シタト云フコトハ實ニ殘念至極デゴザイマス(「モウ宜イ」「其通」ト呼フ者アリ)ソレデ是ニ就イテ(「モウ宜シイ」ト呼フ者アリ)一應理由ヲ申サネバナラヌ、東洋ノ醫術ト西洋ノ醫術ニ就イテ申シマシタナレバ、實ニ今日東洋醫

ノ興スト云フノハ時勢ニ後レテ居ルノデ、恰モ太陽ガ上ッテ明ルクナツテ來タ所ニ持シテ來テ、薄暗イ行燈ヲ點ケルノト同ジコトデアル、又此醫術ナルモノハ病ニ對スルノ武器デアル、然ルニ東洋醫術ハ弓矢ノ如キモノデアル、日本ノ強敵ニ向シテ、弓矢ヲ以テ防グト云フノハ實ニ怪シカラヌノデアル(「簡單簡單」の「——」ト呼フ者アリ)の「——」(「簡単々々」ノ聲起ル)簡單ニ遺リマス、又之ヲ船ニ譬ヘテ見マスレバデス、今ノ東洋醫術ナルモノハ和船ト同様ノモノデアル、西洋醫術ハ志つかりシタ堅牢ナル汽船ト同ジモノデアル(「簡單簡單」の「——」ト呼フ者アリ)ソレカラ又此事ニ就イテモ此東洋醫デアレバ、裁判醫學ト云フモノガナイノデアル、ソレ故ニ裁判上ノ證人トナルコトノ權利ヲ缺クノデアル、又國家有事ノ時ニ方ツテ軍醫ト爲ルコトガ出來ナイノデ、漢方醫デアレバ外科醫ト云フノハ切口ヲ燒酌デ洗ツテ卵ヲ附ケル位ノモノデ、サウシテ此節柄何ヲスルノデアルカ、則チ軍事——國家有事ノ際ニ方ツテ軍醫ト爲ルコトノ能力ヲ缺クト云フコトデアル、又其次ハ此改正法律案ヲ出シタノハ實ニ私ハ一片ノ德義心ガナイト思フノデアル、恐ラクハ提出者ト雖モ贊成者ト雖モ、イザ病ト云フ時ニハ如何ナル醫者ニカ、ルデゴザイ

マセツカ、是ハ真心ニ問フテ見マシタナレバ必ズ日進醫術ニ依ツテ療治ヲ直スモノデアラウト思フ、恰モ醫術ハ船ノ如キモノデアル、病人ハ城郭ノ如キモノデアル、此弱イ所ノ船ニ乘セテ何ガ出來マスル、和船ニ乘ツテ遠洋ヲ航海スルト云フヤウナ有様ニナツテ居ルノデ、人ノ命ハ構ハヌト云フヤウナ法律ニナツテ居ルノデ、ちよつと爰ニ(「簡單々々」ノ聲起ル)西洋ノ醫術ト東洋ノ醫術ニ就イテ其優劣ノ一ノ例ヲ舉グマスレバ、諸君モ御承知ノ通リ彼ノ馬皮風デアル、西洋醫ノ言フ所ノ實布的里亞デアル、實布的里亞ト云フモノニ小供ガ罹リマシタ時ニハ、百人ノ中九十七人マデハ今マデハ皆死ンデ仕舞フ、所ガ近頃北里博士が發明シタル所ノあんちときんヲ用ヒマシタレバ如何デゴザイマスカ、あベコベニナツテ百人ノ中九十七人マデハ癒スト言ハレテ居ル(「北里サンハ東洋醫ノ發明デスヨ、西洋醫デハナイ」ト呼フ者アリ)若シ是ガ東洋醫ノ用ヒマスル所ノ麻黃トカ、甘遂トカ、大戟トカ、辰沙トカ云フヤウナモノヲ用ヒテハ決シテ癒リハシナイ(「討論終結」ト呼フ者アリ)斯様ナコトニナツテ居レバ、東洋醫ト西洋醫ノ優劣ノコトハ問ハズト分ル、實ニ斯様ナ議案が通過スルト云フコトハ吾々ガ慨歎ニ堪ヘナイノデアル(「同感」ト呼フ者アリ)實ニ明治二十八年ノ今日ニシテ斯様ナル思想ガ段々發達シテ我日本ノ國ガたまるモノカ、實ニ所謂守舊主義保守主義デゴザリマス、斯様ナコトガ此醫術ノ問題バカリデナク、總テ社會ニ於テ斯様ノ芽ガ生ヘテ段々ト社會ニ擴ガツテ來マンタナラバ、如何デゴザリマセウカ、實ニ社會ノ進歩ヲ妨ゲルノデアル、實ニ我日本ハ今日支那朝鮮等ニ向ツテモ文明ヲ教フルノデアルノニ、今頃ニナツテマタ矢張古イコトヲ擧出スト云フヤウナコトデアレバ、實ニ明治開國以來日本ノ文明ノ進歩ニ大キニ齟齬スルモノデゴザリマス(ひやく)實ニ斯様ナル思想ノ發達ヲ撲滅スルノ精神ヨリ第三讀會ニ於テ本案ノト思フガ故ニ、斯様ナ古イ思想ヲ撲滅スルノ精神ヨリ第三讀會ニ於テ本案ノ廢棄ヲ主張スルモノデゴザリマス

(「討論終結」ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 反對贊成兩人ヲ許シマス——毛利莫君

(毛利莫君演壇ニ登ル)

○毛利莫君(四十五番) 私ハ此醫師免許規則改正法律案ハ極テ贊成致ス一人デゴザイマス、聊カ卑見ヲ申上げマシテ(「簡單ニ願ヒマス」ト呼フ者アリ又「十分願ヒマス、贊成ノ譯ガ分カラヌカラ」ト呼フ者アリ)試ミマセウト思ヒマス(「討論終結」ト呼フ者アリ)總テ事ハ進マヌコトハ出來マセヌ、餘程其醫勿論ノコトデゴザリマスルノデ、退クト云フコトハナイハ論ノナイコトデゴザリマスル、併シ其進ムニモ隨分順序次第ト云フモノガゴザリマシテ、唯今木暮君ノ御話ノ中ニゴザリマシタヤウニ進マヌコトハ出來マセヌ、餘程其醫師ノ和漢ノ醫法トカ云フモノハ古イモノデアル、用ヲ爲サヌモノカハ知リマセヌケレドモ、私ガ卑見デハ此我國ガ是マデ段々其新シキ方ニ向ヒテ來マシテ、一旦ハソレデナケレバナラヌト云フテ執ツテ來マシタ方針モ今日デハ

退キマシテ、又一旦捨テマシタモノニ歸ツタモノガ餘計ニアルヤウニ存ジマスル(「ソレハ宜イ物ダケデス、惡ルイモノデナイ」ト呼フ者アリ)此醫師ノ法ニシマシタ所ガサウ強チニ捨ツルベキモノデモナイ所ガアツテ、他日は捨ルベキモノデハナカツタト云フ日ガアラウカト私ハ考ヘマス、今日ノ日清ノ戰ニ於キマシテモ、大和心ト云フモノハ誠ニ結構ナモノデ、是モ前日ハ一度ハ餘程微ケトナツタモノト私ナドハ考ヘマスル(のー)併シ今日ニナツテハ大キニ此大和心ト云フモノガ盛ニナリマシテ、此天下ニ誰一人アツテ西洋臭イコトヲ申シマシテモ、大和心ト云フモノハ誠ニ結構ナモノデ、此和漢醫ノコトニシマシテモ(「簡單」ト呼フ者アリ)必ズ取ル所ノモノガアルト存ジマス、又最前御話ノ中ニゴザリマシタヤウニ何カ戰爭ノ時ノ療治トカ、又ハ手早イ療治トカ云フヤウナモノハ勿論其西洋ノ醫術ノ中ニモ大キニ取ル所ガアルモノデアラウト存ジマス、又此和漢醫ノ方ニ於キマシテモ勿論唯強チニ捨ルベキモノデハナクシテ、又一ツニハ長ズルモノガアル、物ニハ一長一短ト云フモノハ必ズアルモノデアラウト存ジマス、唯西洋ノモノガ何モ斯モ長ジテ居ル、和漢ノ醫法ハ何モ斯モ取ルベキ所ハナイト云フヤウナコトハ、到底アリハ致シマセヌ存念デス、又私ナドハ和漢醫法ヲ贊成スルト申シマシテモ、唯強チニ此和漢ノ醫法デナケレバナラヌト云フノデハゴザリマセヌ、一長一短ガアツテ彼ノ長所ヲ取り、此短所ヲ捨テ此長所ヲ押立テ、彼ノ短所ハ捨ト云フ、斯ウ云フ考デゴザリマスデ、あなた方モ此ソレく實地ニハ御承知ノコトデモゴザリマセウガ、私ハ田舎ノ者デ田舎ノコトヲ能ク申上げマスガ、極ク此私ハ大分縣デゴザリマスルガ、大分縣ノ田舎ナドニ於キマシテハ(「簡單」ト呼フ者アリ)マダ人ガソノ一向此西洋ノ醫法ヲ喜バヌト云フ風ガゴザリマシテ、ソレ故ニ又漢方ノ醫者ニハ掛ラヌト云フヤウナ者ガゴザリマス、其様ナ者ノマダ茲ニ片端ニハアル今日デゴザリマスレバ、マダ此法ノ善惡ヲ論ジマスル所モゴザリマスルケレドモ、先づ其様ナ片端ニハ所ガゴザリマスデ、其様ナ病人ニ宛行ヒマスルニハ、矢張度ノ進シテ來マスルマデハ、其法ヲ存シ置キマシテ可ナルコトデアラウカト存ジマス、ソレガマア一ツ、既ニ此陛下ノ御世嗣ノ御育チ兼ネニナリマスト云フヤウナコトニ就キマシテ、和漢ノ醫方ノ巨擘ノ淺田宗伯ニ其御掛ケニ爲リマシテ、彼是御託シニ爲リマシテコトモアル位ノコトデゴザリマシテ、サウ強チニ和漢醫方ガ何モ用ヲ爲サナイモノトアルナラバ、右様ナ御取扱モノカツタデアラウカト存ジマスル(「御尤」ト呼フ者アリ)此裁判醫學ガナイトカ申シマスルコトヲ申シマスガ、私モ何モソノ書ノ讀メマスル者デハゴザリマセヌガ、併シ此頃モ見マスレバ裁判醫學ニ當リマスルハ、洗冤錄トカ、無冤錄トカ、平冤錄トカ云フモノヲ以テ見マスト、隨分立派ナ裁判醫學ト云フモノガゴザリマス(「ソレガ大學ノ立憲政體ダ」ト呼フ者アリ)又體溫計ジャトカ云フヤウナモノモ結構ナモノト思ヒマスルガ、隨分ソレト相比スルベキモノハ矢張和漢醫ノ方ニモアル、又生

矢張手術ノ上ニ於キマシテハ格別ナサウ異ナル所ハナイカト存ジマスル、私ハ唯今申上げマスル通ノ者デゴザリマスルガ、併シ其私ハ少シハ和漢醫ヲ推ス方ニ僻シテ居ルカハ存ジマセヌ、自ラノコトハちよと見エヌモノデゴザリマス、併シ私ガ眼カラ見マスレバ、唯西洋ノ醫術ヲ推シマスル人ハ、西洋ノ方ニ僻シテ居リハセヌカト云フ考ガアリマス、私ニ於キマシテハ成ルタケ僻セヌヤウニト云フ所ノ心持ガゴザリマスルデ、最前申上げマシタ通ニ、物ニハ一長一短ガアルト云フコトヲ申シタ、僻シテハ居リマセヌ、あなたがたハ自ラス、唯あなた方ニ私ノ心持ヲ申上げマシテ、御考ヲ願フト云フダケノモノ、又化學ト云フモノニシマスレバ本草ノ學トカ、其本草ノ學ヲ一つ分ケマスレバ、氣味ノ學、修制ノ學トカ云フモノガゴザイマシテ、矢張是ヲ行フ上ニ於キマシテ大キニ異ナル所ガナイヤウニ存ジマスル、又此法律案ノ理由ニ申シテゴザイマス、私共ノ見マスル所デハドウ致シマシテモ風土トカ人情トカリマス、此亥いぼるとハ西洋醫術ヲ以テ大キニ鳴々タ人デゴザイマスガ、其志いばるとノ書キマシタ——云フタモノニ

有因食物不和而病者、如中土、宜穀果蔬菜、尤牛羊猪肉少食、爲佳、不食肉者、身軟弱近北極之國、獨宜食肉、因肉能生血助熱也、若南方阿非利加印度人、日日食肥、膩油物必死、大概各國所生之物、本地人食之相宜云々異ナラナケレバナラヌモノデアルト存ジマス、段々取調べテ見マシタ所ガ、毎度西洋醫ノこちらニ渡來致シマシタ志いぼるとガ書キマシタモノガアリマス、此亥いぼるとハ西洋醫術ヲ以テ大キニ鳴々タ人デゴザイマスガ、其

○恒松隆慶君(七十番) 討論終結——本問題ハ……
○議長(楠本正隆君) 本問題ハ通告者アリマスケレドモ、恒松隆慶君ノ討論終結ガ問題ニナリマシタ、討論終結ニ同意ノ諸君ハ起立
○議長(楠本正隆君) 多數
○恒松隆慶君(七十番) 記名投票ヲ以テ
○議長(楠本正隆君) 備該案ノ決ヲ採リマスガ、此案ニ就イテハ前回ヨリ大分混雜ヲ生ジタルコトデアル、ソレデ氏名點呼ハ必ず起ルヤウデアル、此煩ヲ避クルタメニ且ハ又醫術社會ニ於テ其實業ニ直接ノ關係ヲ保ツコトデアルニ依ッテ、自由ノ決議ヲ全ウスルガタメニ、無名投票ヲ以テ決議ヲ採リマス——閉鎖——本案ニ賛成ノ諸君ハ白珠、反對ノ諸君ハ黒珠、而シテ氏名ヲ必御記シナサレテ携帶ヲ請ヒマス——氏名
(町田書記官氏名ヲ點呼ス)
○議長(楠本正隆君) 開匣ヲ致シマスル
○議長(楠本正隆君) 投票ノ結果ヲ報道シマス
總數
名刺モ亦同數
可トスル者
否トスル者
(拍手起ル)
百八十一
該案ハ否決ニ決シマシタ
第五 生絲検査所法案
第一條(楠本正隆君) 次ハ第五生絲検査所法案、朗讀ヲ省キマスル、該案ハ
(「異議ナシ異議ナシ」と呼フ者アリ)
衆議院議事速記録第二十五號 明治二十八年二月六日 醫師免許規則改正法律案 第三讀會 生絲検査所法案 第二讀會
ウト存シマス、斯様ニ私が申上げマスト、兎角已ガ國ノコトヲ一つ十分ニ確
カナモノデアル、張立テネバナラヌト云フ所ノモノヲ第一ニシテ、ソレカラ段々ト化シテ參リマシテ、他ノ長所ヲ取ルト云フコトニ致シマセイデハナリマスマイト考ヘマス、あなたがたハ——左様申シマストああたがたハ自ラノコトヲ後ニシテ、彼ノコトヲ先キニスルノヲ無理ダトスウ御咎メニナリマスカモ存ジマセヌガ、左様ナ譯デハゴザイマセヌ、ドウカマダ申上げタイ事モゴザイマスケレドモ、段々マダ外ニ御話モアル様子デゴザイマス、成ルタケ短クセヌカト云フ御相談モゴザイマシテ、短ク致シマス方ガ却テ宜カラウカト存ジマス、又ソレニ背キマシテ長ク申上げマシテモ、是マデ今マデ申上ゲマシタ事ヲマア少シ委ク申上げマストカ、繰返ス位ナコトデゴザイマシテ、唯今マデ申上げマシタコトニ就キマシテハ、言外ノ意ヲ御推量ヲ願ヒタウ存ジマス

- 議長(楠本正隆君) 満場異議ナシト認メマスル——該案ノ確定ヲ報ジマス
○小畑岩次郎君(二百八十一番) 直ニ三讀會ヲ開カレムコトヲ……
〔賛成タク」ノ聲起ル〕
○議長(楠本正隆君) 直ニ三讀會ヲ開クベシト云フ二百八十一番ノ動議ニ、
御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

生絲検査所法案

- 議長(楠本正隆君) 御異議ナクバ朗讀ヲ省イテ議題ト爲シマスル

〔異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

- 議長(楠本正隆君) 御異議ナキヲ以テ確定ヲ報ジマスル

第六 史料蒐輯ニ關スル建議案

(特別委員長報告)

- 議長(楠本正隆君) 次ハ第六史料蒐輯ニ關スル建議案——廣瀬貞文君

第二讀會

- (廣瀬貞文君演壇ニ登ル)
○廣瀬貞文君(百六十九番) 私ハ此史料蒐輯ニ關スル建議案ノ審査特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ報道致シマス、全體ハ委員長ナル末廣重恭氏ヨリ御報道申スベキデアリマスルガ、目下病氣請暇中デアリマス故ニ、理事ナル不肖が代々御報道申シマスル、委員會ハ一月二十三日ニ委員長並ニ理事ノ互選ヲ致シマシテ、委員長ニ末廣重恭氏、理事ニ不肖ガ當選致シマシタ、ソレヨリ一月二十五日同ジク二十八日、本月ノ五日ニ開會致シマシテ、審議討論ノ末、此建議書中ニアリマス史談會ニ補助シマスル金額四万圓トアルヲ一万圓減ジマシテ、三万圓トンタ修正ハ、全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、此史談會ノ事ニ就キマシテ前後三回委員會ヲ開キマシテ、取調べマシタル事柄ニ就イテ、少シク詳細ニ諸君ニ御報道申サンケレバナルマイカト考ヘマス、ト申シマスルモノハ此史談會ナルモノハ如何ナルモノアリカ、如何ナル成立ノモノデアルカト云フコトハ、既ニ諸君ノ中ニ——諸君ノ方へ史談會ヨリ送リマシテアリマスル明治中興史料蒐輯ニ關シ政府ニ建議アラムコトヲ懇請スト云フ趣意書ト云フモノヲ、本員モ一本持參シテ居リマスガ、此趣意書ニ就イテ史談會ノ如何ナルモノハ去ル明治二十一年ニ宮内省ヨリ島津、毛利、山内、徳川即チ鹿兒島、山口、土佐、水戸ト此四家ニ特命ガアリマシテ、維新前後ノデアルカ、如何ナル成立ノモノデアルカト云フコトヲ御報道致シマセウ、此特命ガアリマシタニ就キマシテ、一層其事ニ題めシ、完全ナル家記ヲ編ミタイト云フコトデ十分勉強シテヤリツ、アラタノデゴザリマスガ、然ルニ此

御維新ノ事柄ハ誠ニ錯雜シテ居リマシテ、唯一家ノ家記ヲ編ミマスニ就イテモ、諸家ガ、例ヘバ四家デ申シマスレバ、四軒ノ大名ノ家デ、互ニ文書ヲ交換シ、事實ヲ攻究セヌケレバ完然ナル家記ヲ得ルコトハ出來ナイト云フ所カラ、互ニ四家ガ打寄フテ事實ノ討究、文書ノ交換ヲスルト云フコトニナリマシテ、フレニ引續イテ其當時岩倉公、三條公、此兩公ノ傳記ヲ編ムト云フコトガゴザリマシテ、是ハ此兩家ノ中ニ於テ編輯委員ガアッテ編シテ居リマシタガ、其兩家モ是ニ合併シテ則チ六軒ノ編輯委員ト云フモノガ相集フテ、事實ノ討究文書ノ交換ヲスルト云フコトニナシタノデゴザイマスデ、ソレガ史談會ノ初リテ、其六軒ノ人々ガ——編輯委員ノ人々ガ寄合シテ、各自ノ傳記ヲ編ムト云フコトニ就イテ、打寄ルト云フ所ノ會ガ、即チ史談會デアッテ、其時ヨリ史談會ハ初フタノデアリマス、右様ノ次第デアリマスカラシテ、史談會ノ當初ノ目的ハ唯此六軒ノ編輯委員ガ各々其家記ヲ編ムト云フニ止マッタノデゴザリマスルガ、段々編輯シテ参リマスルニ就イテ、此六軒ノ編輯委員等ガ考ヘルノニ、此明治中興ノ事業ト云フモノハ、實ニ千古ノ偉業デアッテ、之ヲ此儘ニ打棄テ、唯自分等ノ家記ヲ編ムト云フニ止メタナラバ、實ニ材料モ湮滅ヲシテ完全ナル……他日歴史ヲ編ムト云フ時ニ材料ニ供スルト云フ材料ハ少イデ、ナルナラバ此規模ヲ擴張シテ此御維新前後ノ此國史ヲ編ム所ノ材料ヲ集メタイト云フコトノ相談ガアリマシテ、ソレヨリ規模ヲ擴張スルコトニナッテ、孝明天皇ノ御誕生ノ當時即チ天保二年ヨリ御維新ニナリマシテ、廢藩置縣ニナリマシタ年、即チ明治四年ニ至リマス間、四十一年間ノ歴史ノ材料ヲ蒐輯シヤウト云フコトニ規模ヲ擴張シタノデゴザリマス、其間ニモ段々諸家ヲ勧誘シマシテ此史談會ニ加入スル所ノ華族ノ諸家ガ追々増シマシテ、唯今デハ九十餘軒ニナッテ居リマス、其九十餘軒ノ諸軒ガ各々編輯委員ヲ自身ガ費用ヲ出シテ携ヘマシテ、其編輯委員ガ則チ諸家ノ代表ヲ致シテ一年ニ大會ヲ一遍開キ、毎月例會ヲ二度開キ、ソレカラ二ト七此二七ノ日ニ此九十餘軒ノ編輯委員即チ代表人ノ中ヨリ選拔シマシテ、二十二名ノ取調委員ト云フ者ヲ置キマシテ、此二十名ノ取調委員ガ此二七ノ日ニ赤坂ノ離宮内ニ設ケテアリマス舊藩事蹟取調所ト云フモノガアリマスルガ、則チ此史談會ノ事務所様ノ所ニ集リマシテ、此歴史ニ關シマスル史料ノ蒐輯ヲ設ケ、幹事ヲ設ケルト云フコトニナシテ居リマスルガ、會長ハ唯今観員デ、副會長ガ三名ゴザイマス、其三名ノ人ハ東久世伯、蜂須賀侯、池田正二位、是ハ御隱居テ、池田茂政ト云フ舊岡山藩主デアリマス、此三人ガ副會長ノニ就イテハ、編輯員ヲ各々置キマシテ、調べテアラタノデゴザリマスガ、然ルニ此特命ガアリマシタニ就キマシテ、一層其事ニ題めシ、完全ナル家記ヲ編ト呼フ者アリ)左様デスカ——サウ云フ譯デアリマスカラ、是マデ此史談會

於テ史料蒐輯ニ從事スル其費用ハドウ云フモノヲ以テ今日マデ維持シ來シタ
カト云フニ、前申シマスル此九十餘軒ノ華族ノ家ニテ、各々其編輯委員ヲ置
キマシテ、其編輯委員ヲ置イタル華族ガ、自費ヲ以テヤツタノデゴザイマシ
テ、ソレカラ宮内省ヨリ此二十六年ノ五月以後今月ニ至ルマデ毎月金百十五
圓宛下賜サレテアルノデゴザイマス、即チ一年ニ千三百八十圓ト云フ下賜ガ
アルノデゴザイマス、之ヲ以テ舊藩事蹟取調所ナル所ノ雜費ニ充テ、アルノ
デゴザイマス、サウ云フ仕組ニ史談會ハナッテ居リマスルガ、其史談會が今
日マデ明治二十二年以來何ヲシタカト云フニ、隨分此史談會ハ澤山ナル史談
史料ヲ集メツ、アルノデゴザイマス、此趣意書ノ仕舞ニモアリマス通り、
編述ニ關スル史料ガ二万餘卷、採擇中ニ係ル史料ガ五万餘卷、實歷家應答ニ
關スル史料ガ二百餘冊、殆ド七万二百餘卷ノ材料ガ出來テ居ルト云フヤウナ
次第デゴザイマスカラシテ、世間ニ澤山ナル史料ガアルナラバ、モウ此上ニ史料蒐輯ノ
必要ハナイデアラウト云フ御咎モアリマセウガ、前申シマスル通り、此諸家
ノ人ヒデ寄合ヒマシテ、唯自分ノ家ニ在ル文書ニ就イテ史料ヲ蒐輯シタ次第
デゴザイマスカラシテ、世間ニ澤山保存シテアリマス所ノ歴史ノ編纂ノ上ニ
就イテ最モ缺クベカラザル所ノ歴史ノ文書ト云フモノモ澤山アルノデゴザ
イマスルガ、其上ニ又此四十一年間則チ天保二年ヨリ明治四年ニ至リマス
デノ四十一年間ニ起リマシタ事蹟ニ就イテ其事蹟ヲ目撃シ、又其間王事ニ執
掌シテ功績ノアルト云フ人ヒノマダ現存シテ居ル人モ隨分ゴザイマス、併ナ
ガラ其人ヒモ最早凋落ニ就キ、老衰又ハ死亡スルト云フヤウナコトモアリ、
一日モ早クサウ云フ人ニ就イテ事實ヲ取調べ、又世間ニ保存シテアリマス
所ノ文書ヲ取調べケレバ、人ニ於テハ死亡スルト云フコトガアリ、神社佛閣
其他ノ家ニ於キマシテハ破産ニ係ルト云フコトガアッテ、モウ現ニ此間落合
直亮ナドト云フ人モ亡クナラレタヤウデアリマシン、日々サウ云フ人モ少ク
ナッテ參リマスルカラ、一年モ之ヲ延シマシタナラバ、大變ナル貴イ、此
歴史ノ上ニ就イテハ貴イ人ガナクナルコト、思ロマス、ソレ故ニ今度史談會
ノ目的ハサウ云フ人ニ就イテ聽取り、又世間ニ保存シテアリマス所ノ文書ヲ
搜索シテ、所謂天下ニ跨ヌテ——天下ニ涉ヌテ、此史料ヲ蒐輯シヤウト云フノ
デアリマス、今人ハ死亡シ、家ハ燒失スルト云フヤウナコトガアッテ、此史
料ノ散逸湮滅シマスルバカリデナク、唯今澤山ナル華族ノ中ニ九十餘軒ト云
フモノハ此史談會ニ加入シテ居リマスナレドモ、又富裕ナラザル華族ノ人デ
加入ハシタイガ費用ガ掛ルカラト云フテ加入セヌ、加入セヌニ就イテハ種々
偉業ナル明治中興ノ完全ナル歴史ヲ得ル材料ヲ集ムルト云フコトハ覺束ナイ
カラ、何卒國庫ヨリ此費用ヲ補助シテ貰フテ一日モ速ニ此史料ノ蒐輯ニ從事シ
タイト云フノガ史談會ノ望デアルノデゴザリマス（「モウ分リマシタ」ト呼フ）

者アリ）モウ少シ——デ先程——先頃文部省ノ所管ニ臨時部ノ第三款ニ帝
國大學史料編纂支出金ノ目ガアリマシテ、一箇年ニ一万二千九百一一五箇年
シナイカト云フ御謬解ノ人ガアリマセウガ、是ハ全クサウ云フ譯デハナイン
トカ、或ハ新シイ所ノ事實ヲ調ベルコトモアリマセウガ、是ハ寺社等ニ保存
シテアル古文書ヲ集ムル位ノモノデアッテ、史談會ノ四十一年間ヲ調ベマス
ル史料ノ蒐集トハ抵觸モセズ、重複モ致サナインノデアリマス、ソレデ此歴史
編纂ノ重要緊切ナリト云フコトハ諸君十分御承知デゴザイマスルガ、實ニ此
歴史ト云フモノハ萬國ニ冠絶シタル我日本帝國ノ元氣ヲ振作シ、日本帝國四
千万同胞ノ愛國心ヲ鼓舞スルト云フノハ、此歴史デゴザイマシテ、私ノ考デ
ハ彼ノ軍艦製造モ歴史編纂モ其效能ニ至ラハ變ラナイ位ニ思フノデゴザイ
マス、然ルニ史料ガナクテハ其大切ナル歴史ノ編纂モ出來ナイコトデアッテ
見マスレバ、史料蒐輯ト云フコトハ彼ノ製鋼所ヲ設立スルモ同ジヤウナ次第
ト考ヘマス、果シテ然ラバ史料蒐輯ト云フモノハ一日モ忽諸ニ付スベカラザ
ルモノデアリマシテ、況ヤ千古ノ偉業ナル明治中興ノ歴史編纂ニ缺クベカ
ラザル史料蒐輯ニ就イテ此補助金デゴザリマスレバ、委員會ハ全會一致ヲ以
テ可決シタ次第デゴザリマス、デ是ニ就イテハ此建議書ノ中ニモ在リマス通
リ、政府ガ史談會ニ向テ相當ノ監督ヲ爲スト云フコトモアリマスルガ、是
モ彌、諸君ノ贊成ヲ得テ可決シマシテ補助ニナルコトニナリマスレバ、勿論
此監督ノ下ニ立テハナイカト認メテ、委員會ハ可決シタ次第デゴザリマ
ス、右様ナ次第デゴザイマスカラ、何卒滿場ノ贊成ヲ得マシテ軍事——國事
多端ノ際デゴザイマスナレドモ、一日モ忽ニスペカラザル史料蒐輯ノコトデ
ゴザイマスレバ、何卒速ニ可決アランコトヲ熱望シマス
○吉本榮吉君（六十四番）是ハ建議案デゴザイマスカラ、直ニ決シテ宜イ
ト思ヒマスガ、私ハ少シ修正ノ意見ガゴザイマス、修正ヲちよつと述べマス
ガ、此すつと終ノ方ニ相當ノ監督ヲ爲スト云フ末ノ方ヲ「明治二十八年度ヨ
リ當分金若干ヲ補助ス」ト致スノデアリマス、此三万ナリ四万ナリト云フ金
ヲ限ルコトモ嫌ロマスシ、又年度ヲ定メルコトモ嫌ロマス、是ハ到底核算委
員ノ手ニ掛ルコトデアルカラ、是ヲ此所ニ三万トカ四万トカ極メ、又年度モ
極メテ、衆議院ガ一致ノ決議デ極メテ置イテ、後トテ變ルト云フコトガアッテ
モナリマセス、又審査委員會ニ於テモ既ニ一万圓ヲ削リマシタ、又豫算委員
會ニ於テハドレダケニナルカ知レヌモノデアリマス、又此史料蒐輯ニ就イテ
ハ史談會カラノ趣意書ヲ見マシテモ、多クハ華族連中ガ是マデ宮内省カラ幾

分ノ補助ガアツタガ、政府カラハ補助ヲ受ケズニヤツテ居ッタ、是マデモヤツテ居ラレタナラバ、今カラヤレナイト云フ譯モノク、又既ニ國立銀行ガ延期ニナツカ、三万ヤ四万ノ利益ドコロデハナク、數百圓ノ利益ガアルカラ、此事ハサウ補助ヲセイデモ宜イヤウナ氣持モシマスカラ、旁々以テ年度金額ヲ極メズシテ、政府ガ史談會ニ向テ相當ノ監督ヲ爲シ、明治二十八年度ヨリ當分若干金ヲ補助シ以テ其事業ヲ大成セシメントヲ望ム、因テ建議ストシタ方ガ宜シト思ヒマスカラ、私ハ修正致シマス

〔贊成タタノ聲起ル〕

○田中島雄君(五番) 私ハ質問シマス、是ハ史料ヲ蒐輯スルノ費用——サウスルト史談會ニ於キマシテハ何デゴザイマスカ、數万部ノ史料ヲ蒐輯シテソレヲ活版ニデモシテ、或ハ唯一一部ヲ後來ノタメニ各種ノモノヲ揃ヘテ置クト云フ仕事デゴザイマスカ、或ハ又ソレヲ一ツノ歴史ニ綴シテ十分ナ手ヲ掛けテ、各輯メタ所ノモノ、精確ナルモノカラシテ、歴史ヲ作ラウト云フノデスカ

○廣瀬貞文君(百六十九番)

委員會ノ取調ベタ所ニ據リマスレバ、歴史ヲ作

ルノデハナウテ、唯史料ヲ蒐輯シテ此明治中興ニ缺クベカラザル……

○田中島雄君(五番) 唯輯メテ置イテ——詰リワレデハ何デゴザイマセウカ、賣却——販賣デモシヤウト云フノデスカ

○廣瀬貞文君(百六十九番) いや、販賣スル等ノコトデハナウテ、宮内省ノ下賜金モアツテヤツテ居リマスコトデゴザイマスカラ、此史談會ニ保存ヲシテ、他日學者ナリ何ヲ俟テ完全ナル歴史ヲ編ム材料ニ供シヤウト云フノデアリマス

○田中島雄君(五番) ソレデハ纏メテ置クノデスカ

○廣瀬貞文君(百六十九番) ハイ、現ニ此生存シテ居ル人ヲ呼出シマシテ、其人ノ言フコトヲ——話スコトヲ速記ニ止メマシテ、速記錄モ一百餘卷出來テ居リマス、コレハ活版ニシテアルノデアリマス、サウ云フモノモアリマス、又寫取シテ寫本ノ儘ニシテ保存シテ置クモノモアルト云フコトデアリマス

○議長(楠本正隆君) 通告ガゴザイマス——眞下珂十郎君
(眞下珂十郎君演壇ニ登ル)
○眞下珂十郎君(二百七十九番) 私ハ此史談會ノ舉ヲ大ニ贊成スル者デゴザイマス、此先般モ或ハ說ヲ爲ス者ガアツテカラニ、國家ニ編輯局ト云フモノガアツテ、編輯ノコトノ任ニ當ツテ居リマスカラシテ、斯ノ如ク又他ニ補助ヲ致シ、又費用ヲ費スノ必要ガナイト云フ如キ御論モアツタデゴザイマスルガ、此歴史ノコト、申シマスルモノハ、到底其一ト所デ見タト云フモノデハ満足致サヌト云フコトハ是ハ固ヨリ諸君ノ御承知ノコトデゴザイマス、此歴史ノ編纂ニ就キマシテハ經濟家ノ眼カラ見ルト、經濟ニ必要ナル所ノ歴史ガ集タテ參ルノデゴザイマス、又政治家ノ眼デ見マスレバ、政治ノコトガ集ツテ居ル、又道德家其他ノ所ノ者ノ眼カラ見ルト道德其他ノコトガ重ニ主トナツテ居ル、又宗教家ノ眼デ見タ所ノ歴史ニナツテ參リマスルト、宗教ト云フ

コトガ自ラ主トナツテ參ル、又兵家者流ニ於キマシテハ則チ範略ト云フコトガ十分主トナツテ居ルト云フコトデゴザイマシテ、是ヲ西カラ見タ所、東カラ見タ所、南カラ見タ所、北カラ見タ所ノモノハ、自ラ其變ハルモノデゴザイマスカラシテ、是ハ其幾箇所ニモゴザイマシテ、歴史ト云フモノハ編纂致シタノガ詰リ宣シイノデゴザイマシテ、一箇所ニアルカラシテ必ズ完備スルニアラウト云フガ如キ者ハ是ハ考ノナイ話ト言ハナケレバナラヌ話デゴザイマセウカラ、希クハ又西京ニモアリ、又東北地方ニモアリ、又九州ニモアリ、四國ニモ此編纂スル所ガアルト云フコトデゴザイマス、其種々ナルモノガ寄リマシテ、一ノ完全ナル歴史ト云フモノガ出來ル、併シ此材料ヲ輯メルコトデゴザイマスカラ、其材料ヲ輯ム所ノ人ハ其脳髓ニ於キマシテ唯今申シマスル經濟家ノ思想、道德家ノ思想、政治家ノ思想、宗教家ノ思想、兵家者流ノ思想ノ如キ、其思想ヲ以テ自ラ異ナルモノデゴザリマスカラ、成ルベク多數ノ物ヲ蒐輯致シテ、サウシテ完全ナル所ノ材料ヲ得マセヌナレバ、善良ナル精確ト云フモノハ詰リ歴史上ニ於テ出來ナイノデゴザリマス、因テ私ハ此史談會ノ起ルノヲ大ニ悦ビ、又編輯局ニ於テ歴史ヲ編纂スルニモ拘ラズ、尙又史談會ニ於テモ其歴史ノ材料ヲ蒐輯スルコトガ大ニ起り、又他ニモ起ルト云フコトハ尙以テ悦ブ所ノ一人デゴザイマスルガ故ニ、其事實ヲ擧ゲテ贊成ヲ表スルコトデゴザイマス、前提出者竝ニ此委員長ノ報告ニモゴザイマス、因テ私ハ此史談會ノ起ルノヲ大ニ悦コトハ、今更私ガ喋々スルマデモゴザイマセヌコトデアリマシテ、決シテ此多額ノ費用ヲ要スルト云フコトヲ恐レテ止メルト云フ如キハ、本員ノ大ニ取トテ陽ヲ内ニシ陰ヲ照ス事柄ト云フモノハ大層社會ニ於テ裨益ノアルト云フラナイ所デゴザイマス、單簡ニ右ノ理由ヲ陳述致シマス

〔討論終結討論終結ト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 土居光華君

○土居光華君(百九十二番) 私ハ登リマシタ所ガ御贊成ヲ表スルダケデ、諸君ニ於テ贊成シテ下サレバ、一向異存ハアリマセヌ、討論終結デ宜シウゴザイマス

○議長(楠本正隆君) 然ラバ吉本榮吉君ノ修正ハ定數ノ贊成ガアリマスカ
(「贊成タタ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 定數ニ満チマシタ、則チ議題トナリマシタ、吉本君ノ修正說ニ就イテ決議ヲ採リマス「二十八年度ヨリ當分金若干圓ヲ補助シ云々」

修正メル、右ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 少數
○議長(楠本正隆君) 少數ト認メマスル、次ハ委員説、委員ノ修正ニ同意ノテ参ル、又道德家其他ノ所ノ者ノ眼カラ見ルト道德其他ノコトガ重ニ主トナツテ居ル、又宗教家ノ眼デ見タ所ノ歴史ニナツテ參リマスルト、宗教ト云フ

○議長(楠本正隆君) 少數ト認メマスル、次ハ委員説、委員ノ修正ニ同意ノテ参ル、又道德家其他ノ所ノ者ノ眼カラ見ルト道德其他ノコトガ重ニ主トナツテ居ル、又宗教家ノ眼デ見タ所ノ歴史ニナツテ參リマスルト、宗教ト云フ

起立者

多數

○議長(楠本正隆君) 多數ト認メマスル

○政府委員(林董君) 議長
○議長(楠本正隆君) 政府委員林董君

光緒二十一年正月六日
大清欽命出使全權大臣 尚書銜總理各國事務大臣戶部左侍郎張
大日本帝國欽命全權辦理大臣子爵陸奧閣下

大日本帝國欽命全權辦理大臣伯爵伊藤博文
頭品頂戴署湖南巡撫 邵

(政府委員外務次官林董君演壇ニ登ル)
○政府委員(林董君) 此度廣島ニ於テ我全權委員ト清國媾和使トノ間ノ談判
ノ顛末ヲ諸君ニ報告スルヤウニト申シテ、伊藤總理大臣竝ニ陸奧外務大臣ヨリ
往復ノ書類ヲ纏メテ先刻到著致シマシテゴザイマス(謹聽々々)是ヲ朗讀致
シマス

外務大臣 ヨリ清國欽差全權大臣ヘ宛テタル帝國全權辦理大臣任命ノ

通知書

大日本帝國皇帝陛下ノ外務大臣從二位勳一等子爵陸奧宗光ハ茲ニ大清帝國
皇帝陛下ノ欽差全權大臣ニ向テ左ノコトヲ通告ス
大日本帝國皇帝陛下ハ内閣總理大臣從二位勳一等伯爵伊藤博文及本大臣ヲ
全權辦理大臣ニ任命セラレ大清帝國皇帝陛下カ任命セラレタル欽差全權大
臣ト媾和豫定條約ヲ締結スルノ全權ヲ委任セラレタリ

明治二十八年一月三十一日廣島ニ於テ

外務大臣子爵陸奥宗光(官印)

(封筒上宛名)

大清帝國欽差全權大臣張蔭桓閣下

右ニ對スル通知デゴザイマス
帝國全權辦理大臣ヨリ清國欽差全權大臣ヘ向ケ會晤時日ノ通知書

大日本帝國全權辦理大臣ハ茲ニ大清帝國欽差全權大臣ニ向テ左ノコトヲ通
知ス
大日本帝國全權辦理大臣ハ二月一日午前十一時廣島縣廳ニ於テ大清帝國欽
差全權大臣ニ會晤スヘシ而シテ其時ニ於テ互ニ帶有スル所ノ全權委任狀ヲ
交換スヘシ

明治二十八年一月三十一日廣島ニ於テ

大日本帝國全權辦理大臣伯爵伊藤博文

大日本帝國全權辦理大臣子爵陸奧宗光

是ハ媾和使カラノ返事デゴザイマス

帝國全權辦理大臣ノ通知書ニ對スル清國欽差全權大臣ノ回答書
本大臣命ヲ奉シ恭テ國書ヲ賚シ貴國ニ出使シ光緒二十一年正月六日廣島ニ
到リ貴大臣ヨリノ來文ニ接シ貴大臣ハ貴國大皇帝ノ旨ヲ奉シ特ニ全權辦理
大臣ノ任ヲ授カリ本大臣ト媾和豫定條約ヲ締結セシメラルトノ事ヲ敬悉ス
貴國カ舊好ヲ忘レラセルノ意ヲ諒解セントテ期ヲ請ヒ相會セント欲スル
折柄爾後貴曆二月一日午前十一時廣島縣廳ニ於テ會晤セントノ事ヲ通知セ
ラレシニ因リ本大臣ハ期ニ至リ前往スヘシ此段公文ヲ以テ回答ス

次ハ清國皇帝ノ勅諭、是ガ清國ノ御委任狀
清國欽差全權大臣ノ帶有セル勅諭書

尚書銜總理各國事務大臣戶部左侍郎張蔭桓
頭品頂戴署湖南巡撫邵友濂ヲ派シテ全權大臣ト爲シ日本ヨリ派出ノ全權大臣ト事件ヲ會商スヘシ爾ハ仍ホ一面ニ總理衙門ニ電達シ朕ノ旨ヲ請フテ遵行スヘシ隨行ノ官員ハ爾ノ節制ニ聽カスヘシ爾其レ精誠ヲ殫竭シ謹テ事ヲ行ヒ委任ニ負ムクコト勿レ爾其レ之ヲ慎メヨ特ニ諭ス

是ハ回答

內閣總理大臣伯爵伊藤博文副署

次ハ清國皇帝ノ勅諭、是ガ清國ノ御委任狀
清國欽差全權大臣ノ帶有セル勅諭書
大日本帝國全權辦理大臣カ只今大清帝國欽差全權大臣ニ知照セシ所ノ全權
委任狀ハ媾和約件ニ付大日本國皇帝陛下ヨリ該全權辦理大臣ニ附與セ
ラレタル一切ノ權限ヲ包含スルモノナリ
就テハ可成他日ノ誤解ヲ避ケル爲メ且互相ノ主意ニ基キ大日本帝國全權辦
理大臣ハ大清帝國欽差全權大臣ヨリ知照セラレシ所ノ全權委任狀ハ未タ查
驗ヲ經サレトモ果シテ大清國皇帝陛下ヨリ媾和約件ニ付該欽差全權大
臣ニ附與セラレシ一切ノ權限ヲ包含スルモノナルヤ否書面ヲ以テ確答アラ
シコトヲ望ム

明治二十八年二月一日廣島ニ於テ

是ハ全權兩委員ニ宛テマシタノデス

右節略ニ對スル清國欽差全權大臣ノ回答書

光緒二十一年正月七日貴大臣ハ奉スル所ノ貴國大皇帝ノ勅書一通竝節略一通ヲ面會シテ交付セラレ本大臣ニ於テハ何レモ既ニ散悉ス又本大臣カ奉スル所ノ全權職任ヲ詢問シ公文ニテ回答スヘキ事ヲ請求セラル本大臣貴國ニ出使シ奉スル所ノ勅書ハ貴大臣ト即日交換スルヲ經タリ本大臣ハ本國大皇帝ヨリ媾和締結ノ爲メ條款ヲ會商シ記名調印ノ全權ヲ與ヘラレタリ議スル所ノ各條款ハ迅速ニ辦理スルヲ以テ電信ニテ本國ニ奏聞シ勅旨ヲ請ヒ期ヲ定メ調印シ其ノ上ニテ議セシ所ノ條約書ヲ賛シテ中國ニ歸リ恭テ大皇帝ノ親カラ披閱ヲ加ヘ果シテ妥善ナリトシテ批准セラル、ヲ待テ施行スヘキコトトス此段公文ヲ以テ聲明ス

光緒二十一年正月八日

大清欽命出使全權大臣尙書銜總理各國事務大臣戸部左侍郎張頭品頂戴署湖南巡撫

邵

大日本帝國欽命全權辦理大臣伯爵伊藤閣下

是ハ最後ニ伊藤全權大臣ヨリ支那使節ニ申述ベタル演說

明治二十八年二月二日清國欽差全權大臣ニ對スル伊藤全權辦理大臣

ノ演述

本大臣カ今同僚ト俱ニ將サニ採ラントスルノ處置ハ論理上止ムコトヲ得ナルノ結果ニ出ツルモノニシテ其責素ヨリ本大臣等ニ歸スヘキニ非ス從來清國ハ殆ント列國ト全然睽離シ時ニ或ハ列國ノ社團ニ伍伴スル爲メニ生スル所ノ利益ヲ享受シタルコトアルモ其ノ交際ニ伴フ責守ニ至テハ往々自カラ顧ミサルコトアリ清國ハ常ニ孤立ト猜疑トヲ以テ其ノ政策トス故ニ其ノ外交上ノ關係ニ於テハ善隣ノ道ニ必要トスル所ノ公明ト信實トヲ缺クヤ宜ナリ

清廷ノ欽差使臣カ外交上ノ盟約ニ付キ公然合意ヲ表セシ後却テ翻然トシテ之ニ調印スルコトヲ拒ミ或ハ儼然已ニ締結シタル條約ニ向テ更ラニ明白ナル理由モ無ク漫然之ヲ拒否セルノ實蹟ニシテ足ラス右等ノ實績ニ就テ之ヲ徵スルニ當時清廷ノ意中操持スルノ誠實ナク其ノ談判ノ局ニ當レル欽差ニ至テモ復タ必要ナル權利ヲ委任セラレサルコト比々皆ナ然ラサル無キヲ見ルヘシ

故ニ今日ノ事アル當初ニ於テ我帝國政府ハ先づ既往ノ事實ニ鑑ミ全權ノ定義ニ協ハサル清廷ノ欽差トハ一切談判ヲ避クルノ決意ヲ以テ斷然媾和談判ヲ開クニ當リ清廷ノ委任者ハ媾和締結ニ對スル全權ヲ有セサルヘカラサルヲ以テ豫メノ條件ト爲シタリ而シテ清廷ハ此條件ヲ恪遵シテ其全權者ヲ我國ニ派遣セラレタリトノ確然タル擔保ヲ認メ我大日本天皇陛下ハ本大臣並ニ同僚ニ委スルニ清廷ノ全權者ト媾和ノ豫定條約ヲ締結シニ調印スル

ノ全權ヲ以テシ給ヘリ

清廷ハ既ニ此ノ擔保ヲ爲シタルニ拘ハラス兩閣下ノ委任權ノ甚タ不完全ナルハ清廷ノ意未タ和ヲ求ムルニ切ナラサルコトヲ確認スルニ足ルヘシ昨日此席ニ於テ交換シタル雙方ノ委任狀ハ一見以テ其ノ軒輊ノ甚シキヲ知ル殆ント批判ヲ俟タスト雖トモ茲ニ之ヲ指摘スルモ肯テ徒爲ノ業ナラサルヲ信ス即チハ開明國慣用ノ全權ノ意ニ適フモ他ハ全權委任ニ須要ノ諸項幾ント悉ク缺乏シタルコト是ナリ加之兩閣下カ携帶セラレタル委任狀ハ閣下等カ談判セラルヘキ事項ヲ明ニセス又何等訂約ノ權利ヲ與ヘス且兩閣下ノ所爲ニ對スル清國皇帝陛下事後ノ批准ニ付テモ一言スル所ナシ之ヲ要スルニ閣下等ニ委ネラレタル職權ハ本大臣及同僚ガ陳述スルヲ聞テ之ヲ貴政府ニ報スルニ止マルモノト謂ハサルヘカラス事既ニ茲ニ臻ル本大臣等ニ在テハ此上談判ヲ繼續スルコト決シテ能ハサル所ナリ

或ハ云ハシ今回ノ事ニ於テハ敢テ從來ノ慣例ニ背キタルモノニ非スト本大臣ハ斷シテ如此キ説明ヲ以テ足レリトスル能ハス清國內地ノ慣例ニ至リテハ本大臣素ヨリ之ニ容喙スルノ權ナシ然リト雖トモ我國ニ關連スル外交上ノ案件ニ至テハ清國特殊ノ慣例ハ國際上ノ法則ニ凌駕セラレ裁抑ヲ受ケサルヘカラサルコトヲ主張スヘキハ獨リ本大臣ノ權利ナルノミナラス又本大臣ノ義務ナリト信ス

抑ハ平和ノ克復ハ至重至大ノ事ナリ今再ヒ輯睦ノ道ヲ啓カントセハ固ヨリ之ヲ目的トシテ條約ヲ締結スルノ必要アルノミナラス其ノ互ニ締約スル所亦必ス之カ實踐ヲ期スルノ誠衷ナカルヘカラス媾和ノ事ニ關シテハ我帝國ヨリ進テ清國ニ求ムヘキ理由ヲ見スト雖トモ我帝國ハ其代表セル開明ノ主義ヲ重ンスルヲ以テ清廷カ至當ノ道軌ヲ履ミ其ノ緒ヲ開クニ於テハ之ニ應スルノ義務アリト信ス然リト雖トモ無效ノ談判若クハ紙約ニ止マルノ媾和ニ參與スルカ如キハ將來堅ク謝絶スル所ナリ我帝國ハ一旦締約シタル所ノ條件ハ必然之ヲ實踐スヘキヲ明言スルト同時ニ清國ニ向テモ亦此ノ如ク其履行ヲ確カメサルヘカラサルナリ

此ノ故ニ清國カ切實信誠ニ和ヲ求メ其ノ使臣ニ委ヌルニ現實ノ全權ヲ以テシ且其ノ締結セル條約ノ實踐ヲ擔保スルニ足ルヘキ名望官爵アル者ヲ擇ンテ此ノ任ニ當ラシムルニ於テハ我帝國ハ更ニ談判ニ應スルヲ拒マサルヘシ談判拒絶ニ關スル節略

大日本帝國政府ハ東京駐劄及北京駐劄亞米利加合衆國特命全權公使ニ由テ和ヲ講スルニハ和約ヲ締結スルニ足ルヘキ全權ヲ帶有スル委員ヲ簡命スヘシキコトヲ屢々聲明スルヲ經タリ然ルニ本月一日大清帝國欽差全權大臣ヨリ大日本帝國全權辦理大臣ヘ知照セラレタル所ノ命令狀ハ其ノ之ヲ發セラレタル所以ノ目的ニ對シ極メテ妥當ヲ缺クモノト爲サヘルヲ得ス何トナレハ該命令狀ニハ普通ニ全權委任狀ニ缺クヘカラサルモノト知ラレタル所ノ要素ヲ殆ト具備セサレハナリ

而シテ大日本帝國政府ノ所見ハ今尙ホ前キニ亞米利加合衆國特命全權公使ヲ經テ聲明セシ所ト相異ナルコトアルナシ因テ大日本國皇帝陛下ヨリ授與セラレタル適當且完全ナル全權委任狀ヲ帶有スル所ノ大日本帝國全權辦理大臣ハ單ニ事件ヲ會商シ總理衙門ヘ咨報シ旨ヲ請フテ遵行スヘシトノ命令狀ノミヲ帶有セラル、所ノ大清帝國欽差全權大臣トハ會議スルコトヲ肯諾スルコト能ハス是ヲ以テ大日本帝國全權辦理大臣ハ今回ノ會議ハ此ニ止メサルヲ得スト宣言スルノ外ナキニ至レリ

明治二十八年二月二日廣島ニ於テ

○議長(楠本正隆君) 次ハ日程第七裁判所構成法中改正法律案

(拍手起ル)

○裁判所構成法中改正法律案(守屋此助君外二名提出)

第一讀會

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

明治二十三年法律第六號裁判所構成法中左ノ如ク改正ス
第二條 通常裁判所ニ於テハ特別裁判所ノ管轄ニ屬セサル民事刑事及其他

總テノ事件ヲ裁判ス

第十四條

第二ノ内(口)ハトモ削除

第三十七條

第二削除

第五十條ノ内(口)地方裁判所及控訴院ニ於テ控訴ニ付爲シタル判決ニ對スル上告

○議長(楠本正隆君) 守屋此助君

(守屋此助君演壇ニ登ル)

○守屋此助君(百一番) 本員ハ此裁判所構成法中改正法律案ニ就キマシテ極簡單ニ提出ノ理由ヲ申上ダヤウト思フ、此裁判所構成法ノ改正ノ必要ヲ感ジマス譯合ハ、構成法ノ第二條ノ規定ニ依リマスルト云フト、日本ノ國デハ訴訟ガアツテモソレヲ裁判スル裁判所ガナイ、事件ガ澤山出來テ居リマスカラ、苟モ訴訟ニナルモノハ裁判所ガアル上ハ裁判所デ裁判ヲスルト云フコトニスルニハ構成法ヲ直サナケレバナラヌト思フノデ、詰リ訴訟事件ガアリ、裁判所ガアルト云フノハ、構成法ガ惡リ、裁判所ガアルト云フノハ、構成法ガ惡リカラデ、ソレヲ直スニハ構成法ノ第二條ヲ直セバ其弊ヲ救得ルト云フノデス、其外ニ不動産ノ經界占有ノミニ關スル訴訟ト云フヤウナモノハ、價格ガ幾千圓ニ當ルモノデモ、價格ニ拘ラズ區裁判所ノ管轄ニ屬シテ居ルノデ、是ハ本員等ニ於テハ非ナリト見ルノデ、不動産經界論ニ就イテ數千圓數万圓ニモアタル訴訟ガアルノニ、價格百圓以下ノ裁判ヲスル價直ノナニ區裁判所合議裁判ノアルト云フ今日ニナッテ、單獨判事ニ裁判ヲサセルト云フコトハ、經界論ニ於テモ占有ニ關ル訴訟ニ於テモ不都合デアル、免ニ角此四條ノ中ノ「不動產ノ經界ノミニ關ル訴訟占有ノミニ關ル訴訟」是等ハ區裁判所管轄内ヨリ「價格ニ拘ハラス管轄スル」ト云フコトハ取リマシテ、安イモ

ノハ區裁判所、百圓以上ノ價ノアル地方裁判所ノ方ノ事件トスルト云フ精神デアリマス、ソレカラ、唯今ノ裁判所構成法ニ依リマスルト、控訴院ハ上告事件ヲ裁判スルト云フコトニナツテ居ル、是ハ外國ノ構成法ヲ燒直シテ其儘ニシタカラ妙ナモノガ出來タノデアリマスガ、聯邦國ノ構成法ヲ日本ノ如キ法律ノ統一デアル國ニ施行シタカラ妙ナモノガ出來テ來タト思フノデ、上告ハ法律ノ裁判所デ、法律ノ統一ヲ掌ルノハ日本デハハツノ控訴院ト、一ツノ大審院トデ都合七通リノモノデ掌ルト云フコトニナツテ居ルガ、是ハ不都合ダ、ソレ故ニ苟モ法律裁判所ト云フモノハ大審院一ツニスル考テアリマス、ソレカラ一審御仕舞ノハ議論ガやかましいデアラウト思フ、是ハ又政府モ反対セラレルデアラウト思フ、併ナガラ吾々ハ熱心ニ之レヲ通サナケレバナラヌト云フノハ、詰リ裁判所ニ判事ノ補闕ノアツタ時ニハ司法大臣ハ何處ノ裁判官吏デモ自由ニ轉官轉所ヲ命ズルコトガ出來ルト云フコトニナル、彼ノ有名ナル千谷判事ノ如キモノガ出テ來タノハ此所デアリマス、抑々申スマデモナク裁判官ハ憲法上ヨリ終身官ト云フ待遇ヲ受ケテ居ル、サウンシテ裁判所構成法ノ其意味ヲ明確ニスルタメニ「判事ハ刑法ノ宣告ソレカラ又ハ懲戒ノ處分ニ依ルニアラサレハ其意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラル、コトナシ」ト云フコトガアル、是ハ構成法ノ七十三條ニ書イテアツテ、但書ノ補闕ノ場合ニハ轉所ヲ命ズルコトガ出來マス、則チ行政官ハ司法官ノ獨立ノ裁判官ニ向シテ轉所ヲ命ズルコトガ出來ル、其補闕ヲ命ズルコトガ出來ルトスルト、此所ガ妙デス、補闕ト云フコトニナルト、東京ノ裁判所ノ判事ガ一人辭職スルカ、若クハ死ヌルト云フ時ニナルト、一ツ所ヲ動カスト全國ノ裁判所ノ裁判官ヲまるデ動カスコトガ出來ル、ソコデ一人ノ東京ニ補闕が出來レバ、九州ノ裁判官ヲ連レテ來マシテ、今度九州ニ闕員が出來タカラ大阪ノ人ヲ連レテ來ル、サウスルト又大阪ニ補闕が出來タカラ仙臺カラ連レテ來ル、仙臺ニ補闕が出來ルト、東京ノ人ヲ仙臺ニヤルト云フヤウニシテ補セマスル時ハ、獨立デモ何デモナクナル、故ニ補闕ト云フコトデハ大審院ノ裁判官デモアノ通リノ目ニ逢ハナケレバナラヌデス、斯ウナリマスト如何デス、裁判官ガ獨立デアルト云シテモ、一ノ内閣ヲ形造シテ居ル所ノ司法大臣ガ天下ノ裁判官ヲ自由ニ動カスコトガ出來ル、沖繩ノ端デモ根室ノ端デモ遣ラレル、北海道ノヤウナ所、人ノ嫌フ所デ概シテ裁判官デモ厭フ所デアルガ、行政官ノ自由ニナッテ、裁判官ノ獨立ヲ保ツコトが出來ナイコトニナル、ソレハ則チ刑法ノ宣告若クハ懲戒ノ處分ニ依ルニアラザレバ其意ニ反シテ轉官、轉所、停職、免職又ハ減俸ヲセラル、コトナイト云フノガ根本法ニナツテ居シテ、取除法ニサウ云フコトガゴザイマスレバ如何デゴザイマス、天下ノ裁判官ノ頭ヲぐくニスルデアラウ、ソレダケ内閣ガワレダケノ權利ヲ持ツテ居ルト云フコトニナリマスト、ドウナリマス、裁判官ト云フモノ、獨立ト云フコトヲ非常ニ害スル、獨立ノ精神ト云フモノヲ非常ニ害スル、此所ガ私共ガ大ニ熱心ニ唱ヘナケレバナラヌ所デアリマス、併ナガラ内閣ハ又熱心ニ反対ヲスルデアラウト云フコトハ分ル、行政官ガ司法官ヲ動カス權利ヲ持ツテ居ルト都合ガ宜シイカラ、反対ヲスルデアリマセウ、ガ以上ハ私ガ此構成法ノ改正ヲ提出シタ大要デアリマス、御質問デモアリマスレバ御答ラシマス

○谷澤龍藏君(十五番) ちよつと守屋君ニ御問シマスガ、此十四條ハ不動產ノ經界ニ關ルト云フヤウナコトデ、先づ是ハ隨分我邦ノ今日ノ有様カラ之ヲ

地方裁判所デ抵フト云フコトニスルト云フノハ、是等ノ改正ハ止ムヲ得ナシ、宜シイデアリマセウガ、其他モ宜カラウト思ヒマスガ此三十七條ノ法律ヲ統一スルト云フ點カラハ、隨分之ヲ削除シャト云フコトハ宜イヤウデゴザイマスガ、併シ費用ト人民ノ便利、今日ハ隨分裁判官モ一定シテ居リマシテ、此控訴裁判所デ裁判ヲシマシタ所ガ餘リソノ法律ノ統一ヲ缺クト云フ程ノコトハアルマイト思フ、又之ニ反シテ人民ハ此東京ナラ東京ノ一所ニ集ルヨリハ、僅ノ訴訟ノタメ東京へ來ルト云フコトハ不便利デアル、又不經濟デアル、是ガ書面辯論ト云フヤウナ、書面デ足ルコトナラバ別ノ事デ宜シウゴザリマスケレドモ、口頭辯論ヲ開クニハ隨分費用モ増シ、又不便利デアル、ラウト思フ、之ヲ是非統一ノタメニ統一ヲ缺イテ居ルコトガ澤山アルカラ、此人民ノタメニ不便利ナルニモ拘ラズ、改正ヲシナケレバナラヌト云フ必要ガアルカト云フコトヲ守屋君ニ御尋ヲ致シタイ、ソレカラ又政府委員ニ御尋ヲ致シテ置キタイコトハ、此三十七條ヲ改正シナケレバナラヌヤウナ今日必要ガアルト、併ナガラ此今日ノ軍事多端ナ時デアルカラ、此法律ハ出サヌケレドモ隨分斯ノ如キ法律ノ統一ヲ缺キ、又人民ガ不便ヲ訴ヘテ居ルト云フヤウナコトヲ御取調ニナシテ居リマスカ、本員杯ハドウモ最初出來タ當時ヨリ今日ハ裁判官ガ法律ヲ熟知シテ居ル、又人民ハ餘程便利ニナシテ居ル、故ニ此三十七條ノ如キ改正ハ餘リ必要デナイト思フカラ、政府委員竝ニ守屋君ニ對シテ此點ヲ御尋致シマス。

○守屋此助君(百一番) 私カラ先ヘ便宜上御答致シマスガ、此控訴裁判所ガ日本ニ六ツアルト心得マスガ、六ツノ控訴裁判所ガ上告ヲ受ケ、則チ法律裁判ヲスル所デハ大審院ト併セテ七處デ、之レヲ理窟ノ上カラ先ヅ利害ノ處ト二ツニ分ケテ御答ヲ致シマス、理論上ドウデゴザリマセウ、法律ノ統一ヲ司ルト云フモノガ七所アルト云フノハ、餘程をかゝい話、ソレデ聯邦國ノ外ハ則チ一國々々デ單獨ナ法律ノ特別ニ違ツツテ居ル、獨逸聯邦ノ如キハ格別デアルガ、日本ノ如ク法律ガ全國ニ一ツ法律ガ行レル國ニハ、私ノ承知シテ居ル所デハ、サウ云フ法律ノ裁判所ノ構成法ノアル所ハナイト心得ル、ナゼナレバ法律ノ統一ヲ司ル所ハ一ツ所デナケレバナラヌデ、今條約モ改正ニナラントスル所デアル、此時ニ此文明ナル日本ガ此法律ノ統一ヲ司ルモノガ七所ニアルト云フノハ、奇異ナ思ラヌル、餘程——是ガ理窟上サウデアル、ソンナラ實地ノ利害上ハ七通り六通りニナリ居ルカト云フト、幸ニ谷澤君ハ辯護士デアリマスガ、アルデハアリマセヌカ、アノ通り大審院トカ控訴裁判所ガ裁判ヲ異ニスル事柄ハ最モ訴訟法ニ多イ、刑事及民事ノ訴訟法ノ解釋上ニ於テ最モ多イ、根本法ノ民法トカ刑法トカ云フモノニ就イテモアル、ソレハナゼカト云フト、ドウ云フ譯デサウ云フコトガ出来テ居ルカト云フト、誰デモ自分ノシタコトハ是ナリト信ズルガ故ニ、控訴裁判所ノシタコトハ先づ控訴裁判所ハ是ナリト思フ、大審院ガ手續論デ破棄スルコトハ間ニアル、訴訟法ノ解釋ニ於テモ間ニアル、大審院ニ一步モ讓ラヌト云フヤウナ先生ノ人ガ控訴院ニ頑張ツテ居ル、是ニ於テカ大審院ヘ持ツテ行クト、此訴訟手續ハ違反デアルト云フテ、大審院ガ破棄スルソレデ破棄スル手續デ控訴院ニ行クト、イヤサウデハナイ、ソレハ其事件限ノ大審院ハ其裁判デアルガ、此訴訟法ハ斯ウ解釋シナケレバナラヌト、控訴院デ裁判スルコトハ比々アル、是ハ數限ナクアル、ワレカラ根本法ニ於テモ亦然リ、法律ノ解釋論ニ

於テモ亦然リ、一ツノ訴訟事件ニ於テモ控訴院ニ於テハ斯ウ云フ裁判ヲスル云フノニ、其根本法ニ於テ破棄スル、破棄スルト云フト、控訴裁判所ノ裁判官ハ一向大審院ノ裁判ニ行政官デナイカラ、決シテ届從シナケレバナラヌト云フコトハ、法律上權利モナシ、義務モ持タヌ、獨立ノ裁判官デアルカラ、根本法ノ民法刑法ノ解釋論ヲヤッテ、大審院デ破棄スルノヲ控訴裁判所ニコトハ、法律上權利モナシ、義務モ持タヌ、獨立ノ裁判官デアルカラ、又大審院ハ控訴裁判所ガ爲シタコトニ就イテ則チ根本法ノ民法刑法等ニテモ、屢々斯ルコトヲ致シマス、訴訟手續ニ於テハ最モ多イ、其例ヲ御覽ニナラウト思ヘバ、東京デ吾々ガスルノニ上告事件、大審院ヘ持ツテ行クト上告事件ト、控訴裁判所ヘ持ツテ行クト時分ノ上告事件ト云フモノハ、行クト裁判所ニ依クテ鑑定ヲスル時ニ考ヲシナケレバナラヌ、ドコノ裁判所ヘ行クト云フコトモ第一ニ聞イテ、ソレカラ後ニ鑑定シナイト、鑑定書ガ達フ、辯護士ガ訴訟ヲ鑑定スルノニ法理論ハ斯様デアル、併ナガラ此裁判ハドコノ裁判所ヘ持ツテ行クトナラ、此事件ハ負ケデアル、斯ウ云フ鑑定ヲシナケレバナラヌ、ソレハ向フノ裁判所ヲ見テサウシナケレバナラヌ、ソレガ實際ノ有様デアル、サウデゴザリマスカラ、斯ウ云フコトニナルト、云フト餘程をかゝいモノデアリマスカラ、私ノ考ハ理論上統一ニナラネバナラヌ、實地ノ仕事ノ上ニ於テモ左様デゴザリマスカラ、此條ノ刪除ヲ要スルヤニ考ヘマスルノデゴザイマス、ソレトモ免ニ角ニ裁判所ハ方々ノ裁判所デシテモ統一ニナラヌデモ構ハヌト云フナラバ、ソレハソレマデデス

(二)定規ノ人ガアリマセヌ「ト呼フ者アリ」

○金岡又左衛門君(百七番) 私モ守屋君ノ述ベル如ク、七十二條ノ但書、則チ裁判官ノ獨立ヲ證明シ、又修身官タルコトヲ證明シマスルニハ、此但書ヲ删除スルコトハ最モ必要デアリマスガ、ソレニ就イテハ私モ少シク又適用スルト同時ニ困難ノコトガ出來ヤウト思ヒマス、ソレハ外デハアリマセヌガ、此補闕ノ必要ナル場合ニ當シテ、東京トカ大阪ト云フ所ニ闕員が出來マシタ場合ニハ、ドコカラデモ闕員ニ應ズル裁判官ガアリマセウガ、或ハ沖繩トカ若クハ邊鄙ナル所ノ裁判官ニ闕員ガ出來マシタ場合ニハ、誰モ是ハ人情トシテ沖繩环ノ所ニ行カウト云フモノハナカラウト思フ、其場合ニハ一方ニ於テハ裁判官ハ獨立デアルカラ、ソレヲ制裁スル道ハナシ、所ガ此沖繩ノ方ニ闕員ガアルト云フ場合ニハ、如何ナル方便ヲ以テ此補闕ヲ補フト云フコトニスレバ宜イカ、此邊ニ就イテハ守屋君ハ如何ナル御考デアルト云フコトヲ御尋致シマス

○守屋此助君(百一番) 御尤ナ御尋デスガ實地ノ事ノ上ニ於テとんと差支ナイ、ドウ云フ譯カト云フト、昔ヨリ僻地ニ官員ガナイデ治メルコトが出來ヌト云フ例ガナイ、今ノ所デモ何デゴザンス、北海道トカ若クハ沖繩縣トカ云フ所ニ行クトノハ、誰モ嫌フノデゴザイマスガ、サウ云フ人ハイクラカソコヘ行クトノニハ給金ガ上ルトカ、待遇ガ善クナルト云フコトモアル、若クハ又北海道ノ如キハ望人モアル、沖繩ノ如キモ稀ニハ望ム人モアル、ソレハナアルナラバ、沖繩ノ方ニ行キタイト云フコトヲ望ムコトヲ實際ノ上ニ於テ數假定スル、此御方ハドウカト云フニ成ルベク故郷ノ近イ所ニ行キタイト云フ觀念ノアル人ハ丁度思フ所マデ行カヌデモ、仙臺ヨリカハ九州ガ故郷ノ人デアルナラバ、沖繩ノ方ニ行キタイト云フコトヲ望ムコトヲ實際ノ上ニ於テ數

アル、ソレハ實地ノ上ニ於テソレト又逆デ青森ノ生ノ人ガ九州ノ判事ヲシテ居ル人ガアル、此人ハ同ジ給金デモ函館环ニ行クコトハ實地ノ上ニ於テ望ム人ガアル、ソレカラ新ニ判事ニ任ズル人モアリマスシ、所長ガ——沖繩ノ所長ノ如キモノガ闕ケタ時ニハドウスルカ、次席ノ人ヲ所長ニシテ、ソレカラ低イモノヲ澤山入レルト云フ所ノ澤山ノ融通ガアルカラ、決シテ融通ノ上ニ差支ハナイ

○元田肇君(九十三番) 賛成ノ演説ヲ……
○議長(楠本正隆君) マダノく司法大臣芳川君

(司法大臣芳川顯正君演壇ニ登ル)

○司法大臣(芳川顯正君) 諸君、本期議會ノ開カレマシテ此方、本院ノ提出ニ係リマスル議案ニシテ、我司法部ニ關係スル所ノモノハ數々ゴザリマス、而シテ政府ハ此諸法案ニ對シマシテ全幅ノ同意ヲ表シタルモノハ誠ニ僅ニゴザイマス、而シテ今此案ノ議場ニ現ハレマスルニ際シテ、政府ハ又之ニ對シテ不同意デアルト云フコトヲ表彰スルコトハ極テ遺憾トスル所デアリマス、サリナガラ是ヲ憲法ニ照シ、又ハ實地ニ鑑ミ、又將來此改正ノタメニ社會ノ慶福、人民ノ便利ヲ蒙ル所ノ影響ハ如何バカリデアルカト考ヘマスルト、同意ヲ表セント欲シテモ能ハザルノ事情が存在スルノデアリマス、ソレ故ニ今此限ナキノ遺憾ヲ忍シテ、政府ガ此案ニ對シテ同意ヲ表スルコト能ハヌト申ス理由ノ重ナルモノ一二ヲ諸君ノ前ニ開陳致シテ、諸君ノ御参考ニ供シタイト存ジマス、憲法ニ依リマスルト、司法裁判所ガ管轄スル所ノモノト、特別裁判所即チ行政裁判所ノ管轄スル所ノモノニ就イテハ、分界ヲ示シテアリマス、此分界ヲ示サレタノハ行政權ノ獨立ナランコトハ、尙ホ司法權ノ獨立ナラント同様デアリマス、互ニ此嚴重ナル限界ヲ定メ、相侵スベカラザルコトニ致シテアルノデアリ、若シ斯ノ如ク致サズシテ、區域ヲ混同致シテナラバ、行政ノ活動、社會ノ公益ハ是ガタメニ消滅スルニ至ルデアラウト言フノデ、斯ク極メラレタノデアラウト存ジマスル、今此本案ノ趣意デハ、此構成法第二條ニ於テ「通常裁判所ハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス」とアル君御承知ノ如ク、行政裁判法ニ於キマシテ受理スル所ノモノハ列記サレタルモノヲ、其他ノ總テノ事件ヲモ裁判スルモノトスル法案デアリマス、斯ク改僅々ノ數箇條ニ過ギマセヌノデアリマス、此以外ノモノハ總テ排除サレル、正ニナリマシタナラバ、唯今申述ベマシタ憲法ニ於テ、兩裁判所ノ間ニ設ケラレタル區域ハ總テナクナッテ仕舞フデアラウト存ジマス、如何トナレバ諸君御承知ノ如ク、行政裁判法ニ於キマシテ受理スル所ノモノハ拘ラズ、此事ハ裁判スルコトニナリマシタナラバ、行政ノ活動ハ是ガタメニ消滅シテ仕舞ウデアラウト云フ考デアリマス、又是ヲ司法裁判所ニ裁判スルモノト致シマシタナラバ、此司法裁判官ガ果シテ此錯雜ナル行政事務ヲ能ク料理スルモノハ司法裁判所ニ於テハ受理スルノ限ニ非スト言フテアルノニ拘ラズ、此

判所ニ參リマスレバ、言ハミ行政學ヲ修習セザル裁判官ガ、習熟セザル行政事務ヲ裁判スルコトニナルノデアリマス、果シテサウナリマシタナラバ行政事務ノ要素ナル活動ハ忽ニシテ消滅シテ、是ガタメニ社會ノ幸福ヲ是ガタメニ増進スルコトガむつかカラウト私ハ信ズルノデアリマス、而カ致シマシタナラバ、行政權ハ尙ホ司法權ノ如ク獨立ヲ保ツコトガ出來マセウ、甚ダ慨嘆スル有様何レノ所ニ向ケテ行政權ノ獨立ヲ保ツコトガ出來マセウ、甚ダ慨嘆スル有様ニ立至ルデアラウト私ハ思ヒマス又此改正法案ニ據リマスルト、總テノ事件ハ——總テノ事件ト云フノハ如何ナルモノヲ指シマセウ、甚ダ其區域空漠ニシテ際涯ノナキモノト私ハ思フノデアル、總テノ事件ヲ裁判スルコトニナリマシタナラバ、諸君御承知ノ如ク自治ニ一任サシテアル宗教ノ紛議ノ如キ、又市町村ノ祭禮ニ於テ村ノ若イ者ガ山車ノ乘出方ニ就イテあれノ方ガ前キデアル、御前ノ方ガ後トデアルト云フ紛議ガ生ジタ時ニモ、當司法裁判所ニ持テ來タナラバ、之ヲ裁判シナケレバナラヌト云フ場合ニ立至ラウカト思フノデアル、恐ラク御提出者ノ意ニ於テモスル些末ノ事マデモ司法裁判所ニ裁判サセル意味デナカラウカト思ヒマス、ケレドモ此法文ノ意味ニ依シテ解釋ヲ下スモ敢テ過當ノコトデナカラウト私ハ思フノデアル、是レ政府ガ此第二條ノ改正ニ就イテ同意ヲ表スルコトノ出來ナイト云フ理由デアリマス、其次ニハ此總テノ上告ヲ大審院ニ持ツテ來ルト云フコトデゴザイマス、唯今提出者ヨリモ長ニ御演説ヲ承シタ、又此理由書ニ據ツテモ詳ニ承知シマシタ、成程提出者ノ辯ゼラル、如ク、此一帝國ノ下ニアル同一ノ法律ニ對シテ、種類無イノデアリマス、其故ニ社會百般ノ事ヲ料理スルニハ能ク此利害得失ノ種ノ解釋ノアルコトハ甚ダ好マヌノデアリマス、法律統一ノ點ニ於テハ御同意ヲ表スルノデアリマス、左リナガラ凡ソ物ニハ必利害ノ相隨伴スルモノニアリマス、利アレバ必害ガアル、害アルモノハ必利ノナイト言フモノハ決シテ無イノデアリマス、此區裁判所ニ起ツタ此訴訟ハ比較的ニ甚ダ輕微ナモノアリマス、輕微ナモノデアルモノヲ總テ大審院ニマデ持ツテ來ナケレバ上告ハ出來ヌト云フタナラバ、決シテ良好ノ制度ハ申サレマイト私ハ信ズルノデアル、諸君御相關涉スル所ヲ熟慮審議シテ後ニ、彼ヲ選ビ是ヲ捨テルト云フコトヲ爲サシテナラバ、決シテ良好ノ制度ハ申サレマイト私ハ信ズルノデアル、諸君御承知ノ如ク此區裁判所ニ起ツタ此訴訟ハ比較的ニ甚ダ輕微ナモノアリマス、近ケレナケレバナラス、唯理論ノ一片ニノミ偏シテ、實際ノ利害如何ヲ顧ミナカッタナラバ、決シテ良好ノ制度ハ申サレマイト私ハ信ズルノデアル、諸君御承知ノ如ク此區裁判所ニ起ツタ此訴訟ハ比較的ニ甚ダ輕微ナモノアリマス、輕微ナモノデアルモノヲ總テ大審院ニマデ持ツテ來ナケレバ上告ハ出來ヌト云フタナラバ、蒙ツク冤屈ヲ伸ベントスル訴訟民ガ、態ニ東京マデ参ルデアラウカ、ドウデアリマセウ、此控訴院ハ御承知ノ如ク全國ニ七箇所アル、此七箇所ニ向ヘバ東京ニ來ルヨリハイクラカ近イノデアリマス、近ケレバ從テ費用モ省ケル、時日モ少クナル、而シテ見レバ是ニ向シテ上告スル事ハアルナレドモ、總テ東京ニ來ナクテハナラヌト云フタナラバ、殘念ナガラルデアラウカ、ドウデアリマセウ、此法律統一ノタメニ恨ヲ呑ンデ仕舞フト云フ人ガ多々地方ニ出來ルデアラウト思フ、是レ最モ考ヘナクテハナシテ見レバ此自分ノ貴重スル所ノ權利モ之ヲ伸張セムト欲シテモ訴フルニ所ナク——所ハ成程アルナレドモ數百里東京ニ——長日月ヲ費シ、巨多ノ金ハアルナレドモ、總テ東京ニ來ナクテハナラヌト云フタナラバ、此法律統一ノタメニ恨ヲ呑ンデ仕舞フト云フ人ガ多々地方ニ出來ルデアラウト思フ、是レ最モ考ヘナクテハナラヌコトデアラウト私ハ思フ、ソレカラモ——此弊害ノドレタケ及シテ來ルカト云フコトモ亦考ヘナクテハナラナイ、今大審院ガ上告ヲ受ケルノハ一年中千九百餘件アリマス、殆ド二千件、是ニ從事スル所ノ判官ノミニテモ殆ドガタメニ裁判官ニナルモノデナインデアリマス、其故ニ此百般ノ事ガ司法裁

へバ、千八十幾件アル、成程之ヲ大審院ニ總テ持ツテ來ルモノトシテモ、區裁判所デ起タル事件ハ比較的ニ輕微ナルガタメニ、悉クハ參ラヌカモ知レマセヌナレドモ、恐クハ多クノ部分ハ東京ニ來ルモノト覺悟シナケレバナラナイ、然カ致シマスレバ大審院ニ於テモ唯今ノ人數デスラ足ラザルヲ訴ヘテ居ルノデアル、此上ニ千件近イ件數ヲ受ケタナラバ、唯今ノ人デハ足ラナイ又幾多ノ部ヲ増サナクテハナラヌト云フコトモ生ズルノデアル、成程必要ナレバ部モ増シ、金モ増スト云フコトハ、是ハ避クベカラザルコトデアリマスナレドモ、無益ノ—無益トハ申シマセヌ、節約シ得ベキコトナルニモ拘ラズ、人ヲ増シ金ヲ使フト云フコトハ最モ考ヘナケレバナラヌコトデアリマス、ソレ故ニ政府ハ此改正案ニ對シテ、寧ロ法律統一ノ唯名ヲ修飾スルヨリハ、實際唯今ノモノニシテ置イタ方ガ、人民ノ被ル所ノ利便ハ却テ多カラウト信ズルノデアリマス、是亦政府ガ此改正ニ對シテ同意ヲ表スルコトガ出来ヌ理由デアリマス、ソレカラ其次ニ不同意ヲ表シタノハ、唯今提出者ニ於テハ熱心ニ之ヲ通サネバナラヌト云フ御論說デアル、成程御尤千萬デアル、憲法ニ於テハ終身官デス、構成法ニ於テハ裁判ノ宣告懲戒ノ處分ニ依ルニアラザレバ斯クミスルコトガ出來ヌト嚴重ニ極メテアルノデ、此但書ガアルト不都合デアルト云フノハ、政府ニ於テモ御同情ヲ表スルノデアリマス、サリナガラ何故ニ構成法ニ於テ本條ノ精神ニ違フモノヲ掲ゲタカト云フコトヲ探シマスニ、當時構成法ヲ草稿スル時分ノ記録ニ徵シテ見マスルト、立法者中ニ於テモ唯今提出者ノ論ゼラル、如キ議論ハ澤山アツタノデアル、澤山アツタナレドモ、此末ニ但書ヲ此所ニ載セズニ濟マサウト云フ議論ハ立タナカッタ、其理由トスル所ハ諸君我邦ノ如ク長足ノ進歩ヲ爲シ、裁判制度モ遽ニ擴張ヲ致シタノデアル、此場合ニ際シテハ適當ナル裁判官ヲ得ルト云フコトハ甚ダ難カツタノデアル、此時分ニ當ツテ轉所スルコトマデモ其人ノ意ニ反シテハ出來ナイト云フコトニ致シタナレバ、此裁判制度ノ完成セザルガタメニ或ル一地方ノ人ニ於テハ傷害サレタ權利ヲ回復スルニ由ガナイ——所ガナイ、ソレ故ニ此本條ニ嚴格ナル制限ヲ設ケタニ拘ラズ、此但書ヲ加ヘルノハ實際ノ必要ガアルト云フノデ、則チ掲ゲラレタノデアリマス、爾來此構成法ヲ施キマシテ、既ニ經過スルコトノ五箇年ニ垂ントシテ居リマス、此五箇年ノ間ニハ社會ノ事物ハ非常ニ進歩シ、所謂日進月歩デ、舊時ノ面目ヲ改メタニハ相違アリマセヌ、社會萬般ノ教育モ歩ヲ進メタニ相違ナイ、サリナガラ唯今此但書ヲ削ツテ當時トハ面目ヲ改メタカラ、裁判制度ノ完成ヲ期スルニハ差支ナキ程ニ至ツタカト云フコトヲ如何ト顧ミレバ、未ダ此但書ヲ削ツテモ裁判制度ノ完成ヲ缺クコトガナイト私ハ斷言ハ出來マセヌノデアリマス、ソレ故ニ殘念ナガラ此但書ヲ削ルコトニハ政府ハ御同意ヲ表スルコトガ出來ヌノデアリマス、斯ク申セバ政府ハ大層此改正ニ寄カルモノデアルト仰セラル、カモ知レマセヌガ、決シテ不都合ナル簡所ヲ改正スルニ寄カナルモノデアリマセヌ、時節到來致シテ、但書ヲ削除スルモ、裁判制度ノ完成ヲ缺クコトノナイ所ニ到著致シタナラバ、政府ハ諸君ノ提案ニ同意ヲ表スルノミナラズ、進ンデ議案ヲ提出シテ協賛ヲ請フ場合ニ立至ラウト信ジマスルノデアリマス、是則チ政府ガ此條ニ對シテモ同意ヲ表スルコトガ出來ヌト云フ理由デアリマス、之ヲ要スルニ御承知ノ如ク裁判所構成法ハ司法部ニ取ツテハ、一大重要ナ法典デアリマス、加之之ヲ實施シテ以來未ダ五箇年ヲ満足ニ

〇守屋此助君(百一番) 現在足リナイ
○守屋此助君(百一番) 豫備判事ノ數ガ足ラヌカラ、足ルヤウニ捺ヘレバ宜ルモノデアリマセヌ、時節到來致シテ、但書ヲ削除スルモ、裁判制度ノ完成ヲ缺クコトノナイ所ニ到著致シタナラバ、古ヨリ田舎ニ役ミナラズ、進ンデ議案ヲ提出シテ協賛ヲ請フ場合ニ立至ラウト信ジマスルノデアリマス、是則チ政府ガ此條ニ對シテモ同意ヲ表スルコトガ出來ヌト云フ理由デアリマス、之ヲ要スルニ御承知ノ如ク裁判所構成法ハ司法部ニ取ツテは、是レ私が人ノ不足ヲ訴ヘルト申ス所以デアル

〇司法大臣(芳川顯正君) 現在足リナイ
〇守屋此助君(百一番) 豫備判事ノ數ガ足ラヌカラ、足ルヤウニ捺ヘレバ宜レバ、此所ハ斯ク改マツラ宜カラウ、彼ノ所ハア、ナツラ宜カラウト云フ箇所ハナインデハアリマセヌ、必ズ改メテ宜カラウト云フ所ハアリマスナレドモ、重要ナルモノナルガタメニ多年ノ經歷實驗ヲ經タル後ニアラザレバ容易ニ是ニ手ヲ著ケルコトガ出來ヌト云フノデ、差控ヘテ居ル場合デアリマス、他日幾多ノ經驗ヲ積ミ、實歷ヲ經タル後ニ、果シテ改正スペキモノガアレバ、其時ニハ直ニ改正案ヲ草シテ、諸君ノ前ニ提出致サウト云フ考デアリマス、唯今ノ所ニ於テ此提出案ニハ政府ハ到底同意ヲ表スルコトガ出來ヌト云フコトヲ申述ヘテ置キマス

〇守屋此助君(百一番) 司法大臣ノ言ニ依ルト大審院ヘ上告事件ヲ一切受ケルコトニスレバ忙シクナルト云フコトニナツテ、月給モ殖サナケレバナラヌトスウ仰シャイマスガ、其裏面ニハ控訴院ハ仕事が減ツテ控訴院ハ給料ヲ減シテモ宜イ、又人ノ減ルト云フコトヲ司法省ハ御認ニナリマスカ

〇司法大臣(芳川顯正君) 成程理窟詰メニ申シマスレバ、大審院ヘ來レバ控訴院ハ減ルニ相違ナイ、數理ノ上ニ於テハ御尤ニ考ヘルノデアリマス、サリナガラ七箇所ヲ集メテ大審院ニ持ツテ來ル、大審院ヘ持ツテ來タキニハ大長シ隣ニハ短シ——帶ニハ短シ隣ニハ長イト云フヤウナコトデ少々ハ減ルカモ知レマセヌナレドモ、人數ヲ著シク減スト云フコトハ出來ヌカモ知レヌノデアリマス、成程事件ハ減ルニ相違ナイ、サリナガラ何件是ニ就イテ減リ得ルト云フコトハ勘定ハ致シテ居ラヌノデアリマス

〇守屋此助君(百一番) 息ニ角減ルコトヲ御認ニナツテ居レバ宜イ、ソレカラ今ノ補缺ノ場合ト云フモノハ今日ハ時機デナイト言フガ、凡ソいつ頃ガ司法省ハ時機ト思ヒマスカ

〇司法大臣(芳川顯正君) 人ヲ得ラルレバ、其時ガ則チ時機デアルト思フスカスウ云フコトガアルカラ千谷判事ノヤウナガトカ、ガ出來ル、人ヲ得ラレルト云フハドウ云フ程度ヲ仰シャルカ

〇司法大臣(芳川顯正君) 人ヲ得ルハ七十人モ八十八モ人ヲ試験シテ取ル今デスラ不十分ヲ感シテ居ル、或ル處ニ於テハ十分ノ員ヲ充タシテナイ所ガアル、ソレデ入ガ澤山アリマスレバ少モ差支ナイ、いやダト云フ人ハ御退キナサイ、資格ノアル人ハ直チニ用ヒラレバ一向差支ナイ、併シ人ガナイ時ハ、自ラ其人ガ我儘ヲ言フト云フコトハ自然ニ生ズル譯デアル

〇守屋此助君(百一番) ハ、ア(笑聲起ル) サウスルト豫備判事ノ數ガ足ラヌト云フノデスカ

○守屋此助君(百一番) 此(「無用ヤタ」ト呼フ者アリ) 今日ノ處デ澤山司法省ノ試験ヲ受ケル人ガアツテ、すんく及第シ、又大學カラ出ル人デ裁判官トナル人ガ澤山アルガ、司法省ガサウ云フモノヲ豫備セズニ置イテ、此方ヲ必要ジヤト言ッテ手ノ中ニ裁判官ヲ斯ウシヤウト云フ軍略シヤナイカト考ヘル

○司法大臣(芳川顯正君) 御承知ノ如ク、人ハ澤山來ル、如何セシ及第スル人ハナシ、全國ニハ望ム人ハ澤山アルガ、望ム人皆必宜イトハ言ハレナイ

○守屋此助君(百一番) 司法大臣ノ説明ノ事柄ハ分リマシタ、後トハ議論ニ屬シマスカラ……

○元田肇君(九十三番) 議長

○議長(楠本正隆君) 元田君、是ニハ通告ガアリマス——草刈親明君

〔簡単贊辯ハヨセ〕ト呼フ者アリ)

○山田泰造君(二十六番) たつた一ツ御尋シタイコトガアリマスガ

○議長(楠本正隆君) 後トデ……

(草刈親明君演壇ニ登ル)

○草刈親明君(二百二十六番) 私ハ議式上ノ此議案ニ反対スルト云フ發議ヲ致シマス(「簡単」ト呼フ者アリ) 此議案ニ就キマシテハ絶對的ニ私ハ反対ヲ致サウト思フテ居リマシタ、然ルニ司法大臣ガ詳細ニ御陳述ニ相成リマシテ、司法大臣ノ御陳述ニ相成リマシタ事柄ハ、私ノ反対致サウト思フ事柄デゴザリマス、故ニ嘆々ノ辯ハ要シマセヌ、唯司法大臣ハ此改正ニナラウト致シテ居リマスル第十四條ノ第二ノ事ニ就キマシテハ御辯明ガナカツタヤウデゴザリマスルカラ、私ハ是ニ就イテ反対致シマスル理由ヲ極簡略ニ申上げマス、十

四條ノ第二項ヲ取リマスルノハ、區裁判所ノ裁判事件ヲ地方裁判所ニ控訴スルト申シマスル、此制度ヲ廢スト云フコトデゴザリマスガ、サウ云フコトニ致シマスレバ(守屋此助君ソレハ誤解ダ)ト呼フ) いや上告ダ、地方裁判所ノ控訴ヲ經テソレカラ再審ノ上告ヲ地方ノ控訴院モスルト云フコトヲ廢スト

云フコトデゴザリマスガ、若シサウ云フコトニ致シマシテ凡テ上告ト云フモノハ東京ノ大審院ニ限リテ受理スベキモノト相成リマシタ以上ハ、沖縄縣ノ區裁判所事件モ、北海道ノ區裁判所事件モ皆其事件ノ小ナルニ拘ラズ、東京マデ參ラナケレバナラヌト云フ結果ヲ見ナケレバナラヌノデゴザリマス、サウシテ守屋君ハ六箇ノ控訴院ニ於キマシテ上告事件ヲ審理シマスレバ、法律ノ統一ヲ缺クト云フコトヲ御演説ニナツタヤウデゴザリマスガ、私ハ未だ其實例アルコトヲ知ラナイノデアル、守屋君ノ御陳述ノヤウニ裁判所ニ依ッテ事件ノ鑑定ヲセヌケレバナラヌト云フ、ソレハ固ヨリセヌケレバナラヌコトデアラウガ、裁判所ニ於テ事件ノ鑑定ヲセヌケレバナラヌト云フコトハ

法律ノ主要デナクシテ、多クハ事實ノ檢眞中ノ事デアル、よもや守屋君ト雖モ

コトデアラウガ、七箇ノ裁判所がアレバ七箇ノ裁判例が出来ルト云フ御研究往ケバ控訴院ガ受理スルデアラウ、大審院ガ受理スルデアラウト云フ御研究ハナサラヌデアラウト私ハ確ク信ズル、又實例モナインデアル、則チ裁判官ハ獨立デアルカラ、大審院ノ判決ニ羈束サレナイト云フヤウナ守屋君ノ御演説カラ、悲シイカナ我邦ノ裁判官ハ獨立ノ氣象ニ富ンデ居ラヌ、事實ノ上ニ於キマシテ大審院デ赤シト裁判スルモ、吾ミハ黒シト裁判セヌケレバナラヌト云フヤウナ立派ナ肯カナイ裁判官ト云フモノハ今日ノ控訴院ニハナインデゴザ

リマス、裁判所ニ於キマシテハ大審院デ斯ウ云フ裁判ヲ致シタモノニアルト言ヘバ、全國六箇所ノ控訴院ノ裁判例ト相成リマシテ(守屋此助君「ナラヌ、決シテナラヌ」ト呼フ) 則チ法律ノ統一ヲ缺クト云フヤウナコトハ、御心配ハ御無用ト存ジマス、ソレカラ今一箇條辨ジテ置キタイノハ、此第四ニナリマスガ、第四ノ修正デゴザリマス、則チ第七十三條ノ但書ヲ削除スルト云フコトデゴザリマスガ、之ヲ削除致シマシタナラバ、實ニ不都合ナルコトヲ見ルト云フノハ、司法大臣ガ既ニ仰セラレマシタ通デゴザリマス、成ル程サウデゴザリマセウ、豫備判事ト申スモノハ四百圓カ年俸ヲ取ッテ居ルヤウデゴザリマスガ、四百圓ノ年俸ヲ取ッテ居リマス其豫備判事が、他ニ轉所ヲ命ゼラレ、或ハサウ云フモノニ唯給料ノミ與ヘテ居ルノガ不都合デアルト申シマシテ、司法大臣ガ減俸ヲスルカ、免職ヲスルカ、停職ヲセヌケレバ停職スルコトモ出來ナイコトニ相成シテ來マシテ(守屋此助君「成シテ居ラヌ」ト呼フ) 但書ヲ取シテ見マシテ、サウシテ其豫備判事ト云フモノハ強情デ、私ハ四百圓ノ年俸デ澤山デアルカラ、他ノ裁判所ニハ參リマセヌ、宅ニ寐テ居シテ四百圓ノ給料ヲ取シタ方ガ宜イト言ヘバ、國家ハ唯居ル人間ニ四百圓ノ給料ヲ唯遣ラナケレバナラヌ、國家ガ遊ンデ唯居ル人間ニ四百圓ノ年俸ヲ遣ラナケレバナラヌト云フ事柄ハ、守屋君ハ如何ニ御論ジニナリマシタラウカ(守屋此助君「豫備判事ハたゞデアル検事ノ代理ヲサセル時ニ限ルノダ」ト呼フ) 又補闕ノ場合ニ於キマシテモサウデアル、補闕ノ場合ニ於キマシテハ守屋君ハ昔ヨリ官員ノナイ所ハナイト云フガ、是ハ守屋君ノ仰セトモ聞エナイコトデアツテ、裁判官ハ他ノ裁判所ニ轉所セシムルコトガ出來ルト云フ制度ガゴザリマシタナラバ、甲ヨリモ乙ヨリモ丙ヨリモ不足ノ場所ニ裁判官ヲ持シテ参ルコトガ出來マセウケレドモ、斯様ニ窮窟ニ相成シテ居ル以上ハ、則チ守屋君ノ言フ通り但書ヲ取シテ仕舞ヘバサウハ往カヌ、守屋君ハ妙ナ例ヲ引カレマシテ東京ニ遠クシテ沖縄ニ近イ方ノ人ハ沖縄ヲ望ムト云フコトデゴザイマスケレドモ、現ニ守屋君ハ岡山縣デアリマスノニ東京ニ御出ニナツテ居ルノヲ以テ見レバ、矢張東京ニ居タイト云フノハ、即チ繁華ノ地ニ居タイト云フノハ人情ノ然ラシムル所デアリマス、故ニ斯ウ云フ積極的ノ例ヲ以テ此但書ヲ取ルト云フヤウナ議論ヲナサルノハ、甚ダ其當ヲ得ナイコトト存ジマス、要スルニ司法大臣ガ御演説ガアリマシタ通り、現行ノ法律デ更ニ差支ナク、却テ之ヲ改メマスレバ財政上ニ於テ、且ツ人民ノ權利ヲ擴張スル上ニ於テ、不都合ヲ見ルト思ヒマスルガ故ニ、反対ヲ致シマス

(討論終結ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 元田君ハ反対デアリマスカ

○元田肇君(九十三番) 私ハ贊成デアリマスガ、敢テ贊成ノ辯ヲ費ス必要ハアリマセヌカラ、委員ニ付託シタイト云フノデアリマス、其趣意ヲ述べマス、諸君モ御記憶デアリマセウガ、明治二十三年以來各議會ニ於テ裁判所構成法改正案ト云フモノガ提出ニナツテ既ニ昨第五議會デアリマシタカニ委員ニ付託シテ特別委員ノ可決ニナツタ報告モアル位デアル、不幸ニシテ議會ガ解散ニナツタタメニ今日ニ至シテ居ル、其内全部デハアリマセヌガ、一二ノ箇

條ヲ守屋君ガ參照サレテ提出セラレタコトアリマス、私ハ本年ハ總チ議案ハ極ク緊急ト云フ目下ニ追々タモノ、外ハ提出シナイト云フ考ヲ以テ取調ノ方ニ從事致シテ居リマスガ、既ニ案ガ議事ニ上ツタコトアリマス、既ニ上ツタ以上ハ諸君ガ輕々ニ——或ハ輕々ト申シテハ失禮デアリマスケレドモ、討論終結ト言ハレテハ甚ダ困ル、ソレ故ニ私モ今日第五議會ノ特別委員ニ於テ可決シタ所ノ案ヲ具ヘテ提出シテ居リマスカラ、總チ人ノ付託セラレテ、從テ自分ノ案モ追々テ議事日程ニ上ルカ、或ハ緊急動議トシテ此後ノ議事ニ上ルコトガアルナラバ、同一ノ委員ニ付託セラレムコトヲ望ミマス、ドウカ討論終結ト云フコトデナク、鄭重ニ取扱ハレムコトヲ願ヒマス

○議長（楠本正隆君）元田肇君ノ委員付託、御異議アリマセヌカ〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ又「異議ガアリマス」ト呼フ者アリ」○議長（楠本正隆君）少數決ヲ採リマス、委員付託ノ說ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者

少數

○議長（楠本正隆君）少數ト認メマス、一讀會ヲ開ク如何ノ決ヲ採リマス、二讀會ヲ開クニ同意ノ諸君ハ起立

○議長（楠本正隆君）少數ト認メマス——次ハ第八外國畜類傳染病侵入ノ豫防法案

第八 外國畜類傳染病侵入ノ豫防法案（毛利莫君） 第一讀會

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕

第一條 外國畜類傳染病侵入ノ豫防法

第一條 外國ニ於テ畜類傳染病流行シ其ノ病毒内國ニ侵入ノ危険アリト認ムルトキハ有病地ヨリ又ハ有病地ヲ經由シテ來リタル病畜若ハ其ノ疑アル畜類又ハ該病傳染ノ恐アリト認ムル物品ハ其ノ陸揚ヲ爲スコトヲ許サス

第二條 此ノ法律ニ違フ者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此ノ法律ニ畜類病毒傳染ノ恐アル物品又ハ傳染病ト稱スルモノ及檢疫方法等本法施行ニ關スル必要ノ細則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ハ明治二十八年七月一日ヨリ施行ス

〔毛利莫君演壇ニ登ル〕

○毛利莫君（四十五番）此外國畜類傳染病侵入ノ豫防法ニ就キマシテハ大抵ナ理由ハ書記シテゴザリマスデ、どあたモ御案内下サレマシタ通デゴザイマス、最早時刻モ段々少クナカッテ居リマスデ、最モ必要ナ所ダケヲ御参考ニ申上ゲマスデゴザイマセウ、デ此傳染病ハ多ク朝鮮地方カラ九州地方ニ參リマスルモノガ多イノデゴザリマス、デ九州地方カラ四國中國、ソレヨリ段々ト東ニ移ツテ參リ、北ニ移ツテ參リマシテ、大層畜類ヲ損シマスル、申上げマスルマデモゴザリマセズ、今日ハ農業ノ上ト云ヒ工業ノ上ト云ヒ、軍事ノ上ト云ヒ、衛生ノ上ト云ヒ、アレモ是モ皆此畜類ノ發達ヲ力メテ盛ニ致シマセネバナリマセヌ時節ニ方リマシテ、此傳染病ノ參リマシテ、ソレガタメニ畜類ノ損ジマスルコトガ大層ナコトデゴザイマスル、一日モ片時モ此事ハ差置クコトノ出來マセザルモノト信ジマスル、此保護ヲ十分ニ致シマシテ

畜類ノ衰頼致シマセガルヤウニシマセザル時ニ於キマシテハ、何ニモアレ是ガ差支マシテ、大層國ノ發達ノ上ニ差支マスルデゴザリマスルガ、總チ人ノ心モ皆此邊ニハ向ヒテ參リマシテ居リマスルモノト見エマシテ、東國ノ方ヨリモ、西國ノ方ヨリモ、農馬取締上云々シヤノ、或ハ產馬事業ヲドウジヤノト云フヤウナコトノ請願が出て居リマスルコトヲ伺ヒマシテゴザリマスルガ、此邊ノコトハ早晚屹度誰モ皆一同ニ心ヲ注ギマスルコト、信ジマスルデ、ドウゾ此事ニ於キマシテハ十分御贊成ヲ得マシテ通リマスルヤウニ致シタイモノデゴザリマスル、朝鮮ハ又今度是マデヨリモ往來ガ繁クナリマシシ、從テ其往來ノ繁クナリマスル程、其病畜ノ侵入モ亦繁クナリマセウカト考ヘマスルデ、最モ是ハ必要ノモノデアラウト存ジマスル、二十七年ノ九月カラ二十七年ノ十二月三九、十、十一、十二ト此僅四箇月ノ間ニ長崎縣、山口縣、福岡縣、大分縣、此四箇縣ニ於キマシテ（吉本榮吉君）議長指名ノ委員ニ付託ト呼ヒ「贊成々々ノ聲起ル」大層餘計牛ガ死マシテ、ソレニ就キマシテ金モ大層使ヒマシテ居リマスル（簡単ト呼フ者アリ）ソレデ又二十七年ノ頃ニモ大層死ニマシテ、兩三年ノ間ニ於キマシテモ算ヘラレマセザル程ノ牛馬ノ數ガ死ニ、又費用ガ掛ケテ居リマスルデ、皆ソレハ國ノ損デアリマスデ、十分ニ之ヲ防ギタイ存念テゴザイマスルデ、唯今御話ノ委員ニ付託致シマスル、此委員ハ議長ニ任シマスト云フ方ニ致シタイト思ヒマス

○議長（楠本正隆君）吉本君ノ委員付託說ニ御異議ハアリマセヌカ

〔賛成々々ト呼フ者アリ〕

○議長（楠本正隆君）吉本君ノ委員付託說ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（楠本正隆君）御異議ナクハ決定ト認メマスル——明日ノ日程ヲ報ジ

議事日程 第二十六號 明治二十八年二月七日（木曜日）

第一午後一時開議 第一讀會

第一 徵兵令中改正追加法律案（政府提出） 第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第三 明治二十三年法律第七十三號貯蓄銀行 第一讀會

第四 航路擴張建議案 第一讀會

第五 衆議院議員選舉法中改正法律案 第一讀會

第六 越前國敦賀港ニ於テ露領沿海州薩哈連島及朝鮮國貿易ニ關スル船舶ノ出入及貨物積卸許可 第一讀會

第七 法律案（小畑岩次郎君外一名提出） 第一讀會

第八 鳥取縣伯耆國境、島根縣石見國濱田兩港ニ於テ朝鮮貿易ニ關スル船舶出入及貨物積卸ヲ許可スル法律案（恒松隆慶君外二名提出） 第一讀會

○議長（楠本正隆君）是ニテ散會 第一讀會

午後四時五十二分散會 第一讀會

衆議院議事速記録第二十三號正誤 第一讀會

三七八 下 一九 配達 正誤 撤脫